

立命館

父母教育後援会だより



A Magazine for Parents' Association Members of
Ritsumeikan University

2009年度
冬号

2009 Winter Issue

CONTENTS

父母教育後援会秋のオープンカレッジ	02	立命館のゼミナール訪問	30	新生父母アンケート結果報告	42
2008年度財務報告・2009年度予算(概要)	21	海外留学について	34	学生のスポーツ&イベント	44
アカデミック京都ウォッチング	22	エクステンションセンター活用術	36	学園トピックス	46
RITSUMEX '09 プレミアムトークショー	26	施設紹介	38	Information	47
Campus Landscape	28	保健センター健康通信	40		



秋の オープンカレッジ

OPEN COLLEGE 2009
IN KINUGASA CAMPUS & BIWAKO KUSATSU CAMPUS

11月21日(土)、衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで、秋のオープンカレッジが催されました。紅葉の季節を迎え、町全体が鮮やかに色づく京都・滋賀に、約2200名ものご父母が来訪しました。「学生生活講演会」「進路・就職講演会」「アカデミック講演会」といった立命館大学ならではの講演会が開かれた後は、各学部に分かれて懇親会を実施。大学での学び方や、厳しいといわれる就職についての話題に熱心に聞き入る父母の姿が多数見られました。

学生生活講演会では、「親が聞きたい子どもの本音」と題して、昨年に引き続きパネルディスカッション形式を導入。衣笠キャンパスでは、種子田穰学生部長（経営学部教授）がコーディネーターとなって和やかに進行し、4名の学生がざっくばらんに本音を語りました。

大学はチャンス の場 正課と課外、充実した両立を

「学生の生の声を通して、親と子どもの交流をよりよくするヒントにしたい。今回のコーディネーター役となる種子田学生部長の言葉から、学生生活講演会がスタートしました。

最初は、壇上にあがった学生4名の自己紹介から。高校時代から現在に至るまでの流れを示したモチベーショングラフをスクリーンに映し、それぞれの学生生活を発表しました。

まずは中井友貴さん（法学部3回生）が、京都らしさに魅かれて入部し、今では部長を務める邦楽部の定期演奏会の写真などを紹介しました。尾崎良視さん（文学部3回生）は、日々練習に励んでいる応援団吹奏楽部での活動内容や、恋愛のエピソードも思いきりよく披露。続いて福井由紀奈さん（産業社会学部3回生）は、いつも掃除を欠かさない一人暮らしの部屋の写真を公開しました。また1回生の勉強や学生生活をサポートするエンターの活動を通して、かけがえのない仲間ができたことを語りました。そして赤崎雅人さん（法学部4回生）は、今回唯一の4回生ということで、終えたばかりの就職活動の苦労話を語りました。最終的に何が評価されたのか？という質問に、「大学でのオープンキャンパススタッフを4年間やり遂げたこと、バイト先で責任ある立場を任されていたことなど、大学生活での達成度の高さだ」と答えました。

それぞれの発表を受けて、「大学にはいろいろなチャンスがあ



り、そこから何を取捨選択してやり遂げるかが大切なのです」と、種子田学生部長がまとめました。

信頼と会話をキーワードに 親子のコミュニケーションを

続いて、学生生活講演会のメインとなるパネルディスカッションへ。まずは種子田学生部長が読み上げる全15個の質問に、父母と学生が「YES」か「NO」のパネルを掲げて率直に回答しました。

例えば、「親から信頼されている？」という質問には、学生4名が「YES」を、「子どもを信頼している？」の質問には父母の多くが「YES」を掲げ、言葉には出さなくとも互いに結ばれた信頼関係の深さが垣間見えました。また、「子どもの生活や成績についてもっと知りたい？」の質問には2/3の父母が「YES」を、「親に聞かれたらもっと話してもいい？」には3名の学生が「YES」を表示。この辺りでも親子のコミュニケーションをさらに深くするヒントが提示されました。

言葉にできない親子の気持ちをお互いに再確認する場に

質問コーナーの次は、種子田学生部長からの質問を受けて学生が挙手で自由に答えるという方法で、学生の率直な気持ちを聞き出していきました。

「親に言っておきたいこと」には、「親に自慢できる素敵な仲間に出会って過ごしているから安心してほしい」「毎日

の食事もしっかり食べているから心配しないで」など、もっと親に安心感を持ってほしいという学生の願いが示されました。また、「親とのちょっといい話」というテーマ質問では、一人暮らしをする学生が、落ち込んだ時、親には何も話していないのに「人にはいろんな悩みがつきもの。つらい時は神様からの試練だと思って乗り越えて」というメールがあったことに感動し、とても救われたという心温まるエピソードを披露。「離れていてもつながりを感じる」という学生の言葉に、優しい笑みを浮かべる父母の姿が見受けられました。

最後、「親ってどんな存在？」の問いかけには、「親元を離れたことで『最後に帰る場所』という気持ちが強くなった。遠くで見守ってくれているから頑張れるし、悲しませてはいけないといつも思う」といった、普段は恥ずかしくてなかなか言えない子どもの気持ちが述べられました。これらの意見を受けて、「学生達は自分で試行錯誤しながらも元気でやっています。親子の距離感を模索しながらも、基本的には安心して見守ってあげてください」と、種子田学生部長が締めくくりました。



BKCでは、多くの父母からの要望に応えた「親が聞きたい子どもの本音2009」というテーマのもと、4名の学生によるパネルディスカッションが行われました。生命科学部教授として普段から学生と接している白石晴樹学生部副部長がコーディネーターを務め、終始和やかな雰囲気で行われました。



積極的に課外活動に取り組み 学生生活を満喫

学生生活講演会は、白石副部長の「私にも同世代の子どもがいますが、さまざまな学生と接する中で聞いた話から、自分の子どもの気持ちを想像することが多々あります。今日のパネルディスカッションが、皆さんにとって、わが子の気持ちを少しでも理解できる機会になればと思います」という挨拶でスタートしました。

パネラーとして参加したのは、ロボット工学などの研究の推進を目的とした自律型ロボットによるサッカーの祭典『ロボカップ』のプロジェクトに参加し、仲間

と共に世界大会7位入賞を果たしたという青木洋士さん(情報理工学部3回生)、就職活動しながら、BKCキャンパス整備学生スタッフとしてよりよい環境づくりに取り組



んでいる小畑貴文さん(経営学部3回生)、約1年間、100人規模のアカースティックギターサークルで代表を務めていた星尾鈴さん(経営学部2回生)、料理サークルに所属し、滋賀県の特産物の一つである草津山田ねぎみ大根を広める活動を展開している福井梨乃さん(薬学部2回生)の4名。続いて行われた自己紹介で、それぞれの学生生活の充実ぶりを窺い知ることができました。

親の生き方や言葉が 学生生活の大きな励みに

パネルディスカッションは、会場のスクリーンに映し出された質問に対して、学生が「YES」「NO」のパネルを使って回答したり、白石副部長がその理由や具体的な内容を掘り下げて聞き出したりする形で進められました。前半では「学生生活に満足している?」や「大学時代に『伸ばしたい』と思っていることは?」など、それぞれの日常生活や目標に関する質問・回答がなされ、後半には「親に支援してほしいことは何ですか?」「親から影響を受けたところは?」といった、父母に対する本音を探る質問がいくつか投げかけられました。「親が頑張っている姿を見ると自分自身の頑張りにつながるので、断片的でよいのでそういう一面を見せてほしい」「人に何かをしてもらったときに『やっもらって当たり前』と思うのではなく、『ありがとう』と言える、母のような人間になりたい」などの学生の意見を受けて、「親が思っている以上に、子どもは親の姿を見ているということですね」と、白石副部

長がポイントをまとめながら進めていきました。「親に言われて嬉しかった言葉は?」という最後の質問に対しては、「大人になったのだから自覚を持ちなさい」「頑張りが実って合格できたのだから、これからは自分の信じたことをやりなさい」、「自由に生きなさい」といった言葉が挙げられ、親の言葉が励みや支えになっている、親に感謝しているという意見が多く聞かれました。白石副部長は、「うれしい意見を聞くことができました。学生たちは、普段思っていることを本当に正直に語ってくれたと思います。大いに参考にしてください」と締めくくりました。

学生生活を通じて成長していく 姿を見守ってほしい

パネルディスカッションの後には、父母から学生に向けて質問する時間が設けられました。「1回生の息子は下宿をしているが、夜型の生活になっている様子。皆さんはどうなのか?」という質問に対しては、「特に入学当時は、より多くの人たちと触れ合う機会を持ちたいと考える。それらは授業が終了する夕方以降になるので、どうしても夜型になってしまう。ただ、学業に加えて課外活動や友達づき合いを精力的にこなす場合、本当は朝型のほうがいいのは確か。時期がくればそれがわかると思うので、長い目で見てほしい」など、各自が入学当時の生活を振り返りながら答え、父母はうなずきながら聞き入っていました。質問のほかに、「学生の生の声を聞くことができ、非常に参考になった」という感想も聞かれ、父母にとって意義深い講演会となりました。



「不景気に負けない!自分の就活・ほんとのキャリア」をテーマに、浅野昭人キャリアセンター次長による就職状況の現状や対策の解説に加え、実際に社会で活躍する卒業生と今年内定を決めた4回生が、実体験に基づいた就職活動に関するアドバイスをを行いました。

▶ 卒業生・在校生の就職活動体験談



2003年卒
株式会社デンソー勤務

石丸幸弘さん

何をしたいのかを考え抜くことが大切

就職活動中とはにかく、自分が何になりたいのか・またなぜなりたいのかを徹底的に考え、必死に人に伝えました。その経験は、今の社会人生活に確実にいきています。また、実際に社会に出て働いてみると、学生の立場では見えないことがたくさんあったということがよくわかりました。私自身も、社会人になって視野が広がり、自分が本当にやりたい仕事やありたい姿が、更に明確になったように思います。そして自分のキャリアを改めて見直した結果、私は『転職』という選択をしましたが、新しい環境の中で大変充実した日々を送っています。昨今、『就職浪人』という言葉も耳にしますが、まずは社会に出てみる。そして仕事を通して様々なことを経験しながら、自身のキャリア形成を行うという道もあるのではないかと私は思います。就職活動は本当に大変です。しかし、面接にのぞむ際は、暗い顔より明るい顔をしている方が絶対にいい。父母の皆さんには、お子さんがいつも笑顔でいられるような環境作りをぜひしてあげてください。



法学部4回生
株式会社読売新聞大阪本社内定

岸本紅子さん

どんな景気でも努力すれば夢は叶う

私は、2回生で経験した留学と、帰国後に新聞社でインターンシップをしたことがきっかけで記者を志すようになり、新聞社を中心に就職活動を行いました。しかし、春採用の時期に体調を崩し、すべての選考を辞退してしまったのです。そのときは将来への漠然とした不安で2ヵ月程塞込みましたが、就職活動が長期戦になったことでやり方を見直し、春の失敗を踏まえた上で秋採用の選考にのぞむことができました。就職活動が長期に及ぶと、体も心も疲弊します。しかし、インターンシップで出会った共に記者を目指す仲間や、学校の友人、黙って応援し続けてくれた両親のおかげで、最後まで諦めず頑張ることができたように思います。最初の頃は、自分の『やりたいこと』より、『やれること』を基準に仕事を選んだりもしました。しかし、一度リセットして本当にやりたいことを目指し、様々な努力を積み重ねられたからこそ、自分自身すごく成長できました。どんな社会情勢でも、大切なのは強い志と努力することによって得られる実力だと思います。

▶ キャリアセンターによる解説

本年度の求人倍率は1.62倍という数字が出ており、前年度に比べて非常に落ち込んでいます。世界同時不況による急激な景気の悪化の影響が原因ですが、学生自身にこれまでの状況と大きく変わることが伝わりきらなかったこと、また企業側も3月になるまで求人に関する十分な見定めができていなかったことが要因だと考えられます。最も悪かった1999年頃に比べ



るとそれほど悪い倍率ではないものの、業種や事業規模によって大きく異なる傾向にあるので、冷静な判断が必要です。しかし、大卒者の就職、求人数はここ数年横ばいの状態で、企業は4年制の大学生をコンスタントに採用しています。マスコミなどで就職難が騒がれたりもしていますが、過剰に反応する必要はありません。

キャリアセンターでは、積極的な企業訪問による人事担当者との意見交換や、全卒業生の徹底的な進路把握などを通して有益な情報を集め、学生一人ひとりが自分自身の夢やキャリアを描き、それを自覚をした上で就職活動ができるように、最大限のサポートを行っていきます。家庭内においては、ぜひ子どもと「生きてい

くこと」・「働いていくこと」を共に学び、考え、話し合ってください。就職活動ではつらい思いもたくさんします。その不安やつらさを受け止めてあげながら、親の一方的な「こうあってほしい」「こんな仕事をしてほしい」という思いを押しつけるのではなく、まずは子ども自身の希望を聞いた上で、社会の先輩としてアドバイスをしてもらえれば、と思います。



「不景気に負けない! 自分の就活・ほんとのキャリア」と題して、キャリアセンターより昨今の就職状況に関する詳しい説明がありました。厳しい社会情勢の中でも立命館大学の卒業生たちが目覚しい就職決定率を上げていること、また実際に就職氷河期を経験した卒業生と在校生が講演し、リアルな生の声を参加した父母に届けました。

▶ 卒業生・在校生の就職活動体験談



2004年卒
滋賀銀行勤務
杉本知美さん

誰にでも誇れるものを学生時代に見つけて

中学生の頃から陸上競技に励み、大学でも4年間陸上部に在籍。4回生では主将を務めていました。後悔はしたくないとの思いから、部活と就職活動の両立を目指していましたが、面接と試合の日程が重なって悩んだことも。就職活動の合間をぬって早朝や夜に走り込みを行う一方、キャリアセンターで行われる就職ガイダンスなどのフォローを積極的に利用しました。そのかいあって、希望通り、滋賀銀行に内定しました。卒業後は、守山支店や山科支店に配属され、現在勤めて6年です。そもそも銀行を就職先に選んだ理由は、銀行は規模やブランドではなく、行員の接し方や態度など「人」を見て利用される場合が多いから。人間性がアピールできる現場であるという考えからです。内定はゴールではなくスタートだと思います。一生懸命になれること、自信を持って「できた」といえることを学生時代に見つけてください。そして「面接をやめて試合に行く」と言った私を最後まで応援してくれた両親に、今も感謝しています。



理工学研究科 博士課程前期課程2回生
株式会社ジーエス・
ユアサコーポレーション内定
酒井孝康さん

やりたい事を探したら、等身大の自分が見えた

乗り物や家電の仕組みに興味があり、「ものづくりがしたい」と理工学部へ進学。さらに実際のものづくりに欠かせない「人の安全を守る研究」「環境にかかわる研究」を深めるために大学院へ進学しました。やがて専門知識を身につけるうち、環境を守る上で、新しいエネルギーとして注目される電池の重要性を痛感。「京都から世界に貢献できる」と考え、ジーエス・ユアサ コーポレーションに就職を決めました。就職活動の上でまず私が行ったのは、IDAY インターンシップを利用して実際の企業の空気に触れること。その後、合同説明会や学内説明会に片っ端から参加して、興味のある業界を自分なりに探りました。また、キャリアセンターでエントリーシートの添削や面接の相談をお願いしたり、友人と話し合いながら自己分析を深めました。その中で本当にやりたいことが見え、自分に自信が持てるようになりました。私の就職活動に両親はほとんど何も言いませんでしたが、「自分で満足できるよう、思いっきりやれ」と静かに見守ってくれたのが嬉しかったです。

▶ キャリアセンターによる解説

昨年2.14倍だった求人倍率は今年度1.62倍にまで減少し、さらに厳しい就職状況が続いています。しかし2008年度の実績を見れば、従業員数1000人以上規模の大企業への就職は63.2%であり、依然全国平均よりも高い水準の進路決定率を誇っています。



またキャリアセンターでは学生一人ひとりの希望する進路の実現を目指し、電話や郵便だけでなく、携帯メールを使っ

て全卒業生の99.2%の進路を把握しています。内定がまだの人には4回生向けの求人一覧をお知らせしたり、より実践的な面接相談にも応じています。去年は衣笠・BKC・東京キャンパスを合わせて約2万6000人の学生が相談に訪れました。さらには求人企業の新規開拓にも力を注ぎ、新たに550件の求人を獲得しています。

このようにキャリアセンターでは、一人ひとりが思い描いた夢や希望の実現に向け、積極的に支援しています。父母ができるサポートとして、「生きていくこと」「働くこと」について、共に学び、考え、話し合っただけではなく、一社会人として適切なアドバイスをしてあげてくださ



い。手応えのある就職試験で失敗すれば、落ち込んでしまうこともあるでしょう。そんな我が子の辛さや不安を受け止めてあげられるのは、親だけです。万が一、挫折した時には、「頑張り」ではなく、まずはしっかりと我が子の気持ちを思いやること。そしてもう一度、奮い立たせてあげるのが、親としての役割です。

アカデミック講演会は、日頃学生たちが授業を受けている教室で、父母の皆さまにも大学教員の講義を体験していただく企画です。衣笠キャンパスでは、片平博文 文学部教授が豊富な史料やデータベースを参照しながら、平安京に生きた人びとを悩ませた災害について、「水」と「火」をキーワードに講義しました。

史料をひも解いてわかる 歴史時代の災害

現代でも私たちの生活と常に表裏一体である災害。ましてや、歴史時代の人びとにとって災害は、自分たちの生活を破壊する恐ろしいものの代名詞でした。当時の災害にはどのようなものがあったかという点、疫病「火災」「洪水」「大雨・霖雨(ながあめ)」「土砂災害」「風害」「干ばつ・渇水」。そして季節を問わずに発生する「地震」や「火山噴火」などが挙げられます。

歴史時代に起こった災害については、国史である『六国史』や公家の日記、寺院史料をひも解くことで知ることができます。例えば、『日本三大実録』には約1100年前の台風について書かれおり、平安京だけでなく、その周辺の淀川にかかる山崎橋の決壊が克明に記されています。

このように、日本では「水」に関する災害が多く、年間発生件数が最も多いのは洪水です。そこで、平安時代の初めから鎌倉、南北朝時代までの600年間に、京都で起きた洪水の発生頻度を10年単位で調べてみると、洪水の発生に一定の波形がみられました。さらに、洪水発生頻度が最も高かった期間が、藤原道長(966～1027)と白河法皇(1053～1129)の時代と重なったのです。

夏場の災害防止を祈願する 御霊会

さて、古代や中世の人びとはどのような防災対策を行っていたのでしょうか。洪水対策として河川の位置を変えたという記録もありますが、当時の土木工事には鴨川や桂川の氾濫を抑える技術はありません。それよりも、洪水、霖雨、大雨の時に「止雨」を、干ばつ・渇水の時に「祈雨」を神社や寺院に祈願することが最大の防災行動でした。当初は朝廷主導によって、神社への奉幣や寺院での読経が行われていましたが、次第に庶民主体の祭礼や信仰が盛んになります。その代表が「御霊信仰」で、平安京に住む庶民の習慣として御霊会が行われ

ました。御霊会とは、もとは非業の死を遂げたり、不運な地位におとされて憤死した人の怨霊をおさめて神として祀り、これをなだめる祭りです。やがて、彼らを疫鬼や雷神の統御神とみなして大神に祀り上げ、疫病や厄災を防止する形となっていきました。

稻荷社(伏見稻荷大社)、今宮社(今宮神社)、祇園社(八坂神社)、北野社(北野天満宮)、御霊社(上・下御霊神社)の5社の御霊会は、疫病や洪水の多い梅雨前から夏の終わりまで、少しずつ時期をずらして実施されます。そうやって災害から京都の町を守ろうとしたのです。

大火による焼亡から 復興を遂げ続けた京都の町

一方、「火」の災害である火災の発生頻度が高いのは冬季から初夏にかけてで、とくに大火は春がピークになります。京都の春は湿度が低く、強い風が吹く時季であるため、平安から鎌倉時代の記録に残る京都の大火事は、春から梅雨直前までの3ヵ月に最も集まっています。安元3(1177)年4月28日(6月3日)の大火は、夜10時頃に発生して翌日まで燃え続け、当時の都の1/3を焼亡しました。このことは『方丈記』



や『平家物語』のほか、多くの日記に記録されています。『方丈記』の作者・鴨長明は、「火の塊が都の空中を飛び、火が降りたところで火災が発生した」という恐ろしい情景を記しています。火の速度は時速約520mと予測されます。また、当時の気候を分析してみると、梅雨期直前の天気の変わり目にこの大火が発生したようです。

最後になりますが、現在の京都市街の中心である四条烏丸辺りは、平安から鎌倉時代のわずか200年間に12回以上の火災を受けています。十数年に一度の割合で大火を受けながらも、人々は土地を放棄するどころか、復興によって都市を発展させました。今も残る京都の町並みや伝統の中には、過去の文化や技術を踏まえて復興した庶民の生活が息づいているのです。



9～14世紀における10年ごとにみた京都の洪水発生頻度



安元3年(1177)の大火による焼失範囲
(『清辨眼抄』などにより作成)

加齢とともに体重が増加し、メタボリック症候群が心配される人が増えていきます。立命館大学経済学部藤田聡准教授は、18年間をアメリカで過ごし、運動生理学を専門として研究を続けてきました。その研究成果を踏まえながら、適度な運動と食事制限で肥満を解消し、健康に長生きする秘訣を語りました。



生活習慣病にかかる危険を高める肥満

2007年まで、私はアメリカのテキサス大学で教鞭をとっていました。アメリカでは、ジョギング人口、ファストフード店やフィットネスクラブの数などから「肥満になりやすい都市」「健康な都市」ランキングが発表されています。私が暮らしていたテキサス州は、「肥満になりやすい都市」のベスト10に3都市も入ると、「太りやすい州」でした。テキサス州に限らずアメリカは、日本に比べると圧倒的に肥満の人の多い国です。食べる量はもちろん、料理に含まれる脂質や糖質の割合も高水準なので、太りやすく当然です。

いまや日本でもすっかり浸透した「メタボリック症候群」という言葉に象徴されるように、肥満は日常生活における身体活動機能を低下させるだけでなく、慢性疾患や糖尿病といった、いわゆる生活習慣病にかかるリスクも高めると考えられています。

一般に、肥満度を測るBMI数値が25を超えると、「肥満」と判断されます。これに該当する日本人は約3%以下。アメリカより低水準ではあるものの、糖尿病、高血圧症、高脂血症などにかかる人数は、決して少なくありません。それほど肥満ではないのに、生活習慣病に陥ってしまうのはなぜでしょうか？ それには、脂肪だけでなく、筋肉が大きく関係しています。

脂肪を減らすだけでなく筋肉をつけることが重要

生活習慣病を予防するためには、脂肪、中でも内臓脂肪を減らすことが重要です。単純に言えば、一日に消費するエネルギーより摂取するエネルギーを抑えれば、脂肪は減ります。無理なく痩せられる目安は、1ヶ月に2kgまで。それには成人なら1日約480kcalエネルギーを抑える必要があります。

これまでの研究から、食事制限や運動だけのダイエットより、食事制限と運動を組み合わせた方がより成功率が高いことが明らかとなりました。食事制限と運動の割合は、2:1がベスト。つまり食事320kcal、運動で160kcalを減らすと、ダイエットに成功しやすくなるというわけです。

ではなぜ、ダイエットに運動が大切なのでしょう。それは、糖分の約90%が、骨格筋で消費されるからです。骨格筋が十分ついていないと、そこで糖分がうまく消費されず血糖値が増加し、肝臓に余分な糖分が運ばれます。すると次第に、糖分を取り込んで分解する機能が低下する「インスリン抵抗性」と呼ばれる状態になります。

一方、人は老化に伴って自然に筋量や筋機能が低下します。サルコペニアと呼ばれる現象です。筋肉は一日中体内で作られたり壊れたりを繰り返しています。筋肉を作るには、タンパク質や、それを構成するアミノ酸が必要。しかし高齢者の場合は、アミノ酸を糖質と一緒に摂取すると、体内でタンパク質を合成する働きが阻害されてしまいます。つまり、高齢者では通常の食事摂取で得られるタンパク質の合成刺激が低下しているため、筋肉が落ちる。その結果、筋力が低下して転倒によるケガの危険性を増加させるだけでなく、筋量の低下によりインスリン抵抗性がさらに高まり、糖尿病などの疾患を発症する危険性が増加します。この悪しき連鎖を断ち切り、健康に長生き



するために、筋肉をつけることが重要なのです。

有酸素運動やレジスタンス運動がおすすめ

高齢者の健康な体づくりには、有酸素運動、レジスタンス運動、バランス運動、柔軟運動という4つの運動をバランスよく行うウェル・ラウンド・エクササイズが効果的だと考えられています。中でも特に、有酸素運動とレジスタンス運動は、サルコペニア予防に効果的であることを研究により明らかにしました。有酸素運動を一度行なうだけで、インスリン抵抗性が改善され、食事摂取による筋タンパク質合成機能が改善されます。有酸素運動とは、「ちょっとキツイな」と感じる程度の、ウォーキングやジョギングなどの持続的な運動です。レジスタンス運動とは、一定の負荷を与えて筋肉をトレーニングする方法で、適切な運動強度で行えば、筋肉を大きくし、筋力を増加させる効果があります。

本日はゴム状のバンドを使ったレジスタンス運動を紹介します。皆さんもぜひ今日から挑戦してみてください。効果があります。



法学部

情報過多の時代だからこそ「社会で生きる法」を身につけ、キャリアを形成する教育を実践

父母教育後援会の馬場慶子監事による事業中間報告から、全体会が始まりました。続いて、堀雅晴副学部長が挨拶を兼ねて、学部で進めている教育の現状や進路・就職の取り組みについて紹介。学部教育では、法科大学院をはじめとする難関分野の進路・就職を見据え、小集団教育の体系、法学・政治学の導入期教育におけるきめ細やかなフォロー、在学中に人生目標を定めるためのキャリア形成科目の設定という3つの柱を掲げました。100年以上を誇る本学の歴史の中で培われてきた教育哲学をもとにカリキュラム運営を行っていると言いました。

キャリア形成科目については学生が自ら進路を定めるきっかけとなるようなプログラムを用意。最高裁の元判事

や民間企業・中央省庁の方を講師として招き、社会で生きる法を学ぶ機会となっており、学生が未経験のものに臆することなく、しっかりとキャリア形成を行い、目指す進路の獲得に向けて確実に一歩を踏み出せるよう、さまざまな切り口でバックアップを行っていると言いました。最後に法学部スタッフ一同、学生と日々向き合いながら、その声に耳を傾け、共に法学部教育の新しい歴史をつくるべく、まい進していきたいと締めくくりました。

続く平野仁彦法学研究科長による大学院教育の現状の説明、4名の学生による学生生活・就職活動の紹介後に、就職・大学院進学と、成績・学習に分かれ、グループ別懇談会を実施。父母からの活発な質疑応答・意見交換が行われました。



学生の体験談



法学部
4回生
滝本智史さん

エクステンション講座の活用で 公務員試験に合格

入学時は弁護士を志していましたが、OBとの出会いがきっかけで、就職活動では公務員一本に絞りました。公務員試験のための予備校には行かず、私はエクステンションセンターの講座を利用して受験に備えました。エクステンション講座は料金的にも比較的安く、大学内で行われるため、授業との両立がしやすいので非常に効率的でした。友人と模擬面接を行ったり、仲間と切磋琢磨しながら合格を得ることができ、春からの生活を楽しみにしています。



法学部
4回生
大塚美里さん

就職活動を通して感じた 家族の大切さ

自分自身でも納得のいく就職活動ができ、無事に内定を得ることができたのは、家族の支えがあったからだ実感しています。交通費をはじめとする金銭面のバックアップはもちろん、母が何時間も私の話を聞いてくれたおかげで、先の見えない不安の中でも毎回気持ちを切り替えて面接に臨むことができました。また私が目指す業界で働く父も、面接前に社会人の先輩としてのアドバイスをくれるなど心強い存在でした。両親が温かく見守り、支えてくれたことを今本当に感謝しています。



法学研究科
2回生
土田暁彦さん

自分の将来を 考え抜いて掴んだ夢

出身地沖縄の米軍基地問題に関心があり、大学入学後は弁護士、研究者を視野に入れていましたが、新聞社でのインターンシップで出会った貴社に感銘を受け、記者を志すようになりました。面接で厳しいことも言われましたが、重要なのは、一喜一憂しないこと。「なぜ自分がその職業に就きたいのか」を考え抜き、学生生活の「経験」を自分の言葉で語り、伝えました。これから新聞記者として、正義感を持って仕事に取り組みたいと思います。



法科大学院
既修者1回生
津田卓志さん

海外研修を通して見つけた 将来の目標

ロースクールでは、平均して1日に90分の講義が2コマ。一見短いようですが、少人数のクラスなので教員と院生が意見を交わしながら講義が進み、大変充実しています。毎回の授業の準備などで勉強漬けの毎日です。また夏休み中に米国で行われる「ワシントンセミナー」にも参加。現地のロースクールで学ぶ他、最高裁判所や大手弁護士事務所の見学などを通して、将来の目標を見つけることができました。今はそれをモチベーションに、日々勉学に励んでいます。

産業社会学部

考えて実践するアクティブ・ラーニングが 主体的に取り組んでいく力を養う

父母教育後援会の日浦良夫常任委員による事業中間報告から全体会が始まりました。次いで佐藤春吉学部長は「自分達で考えて実践する活動的な学びを通して、問題を解決する力を養ってほしい」と挨拶しました。その後、松田亮三副学部長が産業社会学部の学びについて紹介。社会の様々な問題を自らの問題として取り組んでいくため小集団学習を基軸とした学びを、回生順に説明しました。

続いてパネルディスカッションへと移り、進路を決めたばかりの学生5名が壇上に登場。自身の進路を選び、内定までの道程を語りました。小学校教員、旅行会社、

空調メーカー、エアラインのシステム管理会社、大学院進学と5人の将来はそれぞれ違う中、共通していたのは多くの仲間と一緒に充実した正課・課外活動に励んだという点です。インターンシップ、ボランティア活動、海外留学、京都らしいアルバイト、自主ゼミを立ち上げる…など、意欲的にやり遂げた経験が進路就職活動の糧になったことが伝えられました。

最後は、父母から学生への質疑応答。「資格は実際にどう生きるか?」という質問に対しては、学生から「資格よりも、大学生活で何をどう経験したかが問われた」という実体験に基づくアドバイスがなされ、深くう



なずく父母の姿が見られました。和やかな雰囲気の中活発な意見交換が行われ、有意義な時間となりました。その後、グループ別懇談会(①成績・学習について②就職・大学院進学③個別相談)が開かれました。

学生の体験談



現場主義の 学びが決め手に

産業社会学部
4回生
小学校教員内定
佐藤愛子さん

ゼミでは人間発達を研究しつつ、副専攻で教育学を学び、通信教育を利用して教員免許の取得を目指しています。小学校の部活動指導や学校インターンシップなど、1~3回生で経験した現場での学びが、教員への夢を決定づけてくれたと感じます。なるべく多くの人に出会い、子どもを見つめる視点を幅広く知ることがポイント。就職活動のプレッシャーを乗り越えるにも、互いに高め合える仲間の存在は必要不可欠です。



大学生にしか できないことを 経験

産業社会学部
4回生
旅行会社内定
新田笑子さん

4年間を通じてラジオ番組制作のボランティアに取り組み、京都観光のバスガイドをアルバイトで経験するなど、大学生の今しかできないことを数多く経験。それらを生かすことができる上、人を笑顔にする仕事にひかれ、旅行会社への就職を決めました。就職活動中は精神的につらい時期もありますが、友人や母に何でも話すことでストレスを解消し、乗り越えられたと思います。貴重な人生の勉強になりました。



自分の思いを 伝える難しさを 痛感

産業社会学部
4回生
空調メーカー内定
野口奈穂さん

就職活動を始めた頃はまだ漠然としていましたが、インターンシップを通じて働く責任感について学び、やがて人の生活に欠くことができないものを生み出すメーカーに勤務したいと思うようになりました。最も苦労したのはエントリーシートの書き方です。A4の紙で自分を伝えるにはどうしたらよいか、キャリアオフィスやOB、父親など幅広い人に見せて、客観的なアドバイスをもらったことが功を奏したと思っています。



アクティブ・ラーニングで 自分を発見

基礎と実践を繰り返すことの大切さを学びました。机の上で学んで終わりではなく、自分の足で外へ学びに行くアクティブ・ラーニングを通して、多くの人と触れ合うことができました。それは自分の個性を知る作業でもありました。「自分が得意とする提案力を生かし、常にレベルアップが図れる仕事を…」と望んで、この職業を選択。何よりも大学にいる理由を明確にすることが将来への決め手だと思います。

産業社会学部 4回生
エアラインの
システム管理会社内定
山崎裕也さん



自主ゼミを立ち上げ、 常にポジティブに

大学院への道のりでは、まず研究テーマを決めることが重要。研究計画書を何度も院生に見てもらい、20回は書き直しました。勉強は孤独になりがちなので、同じ目標を持つ仲間を集めて自主ゼミを立ち上げ、週に1回集まって共に勉強に励みました。また大学院の研究会にも足を運び、イメージを膨らませたり、福祉現場へ実習に出向くなど、モチベーションを高めることにも注力しました。

産業社会学部
4回生
大学院進学予定
深谷弘和さん

国際関係学部

学部の高度な学びや海外経験を通して、 国際社会で活躍できる知識と行動力を養成

全体会は、父母教育後援会の濱家重信常任委員による事業中間報告からスタートしました。板木雅彦学部長は冒頭、奨学金をはじめとする父母教育後援会の学生支援に感謝の意を表し、続いて本学が文部科学省の「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に選ばれたことから、「本学部に2011年から英語のみで学位取得ができるコースが設置されます」と報告しました。また、学生が約50社の企業や行政機関の人事担当者を前にゼミでの研究成果を発表し、講評をいただく「オープンゼミナール大会」について紹介。その後早期卒業や飛び級制度のある大学院進学について触れ、「国際関係研究科の卒業生は、留学や海外でのインターンシップ体験が企業から高く評価されています」とメリットを話しました。

次に君島東彦副学部長は、「大学は人なり」という言葉を紹介して、本学で優

秀な学生、教員、職員、卒業生と出会えることが財産であると述べ、「中でも本学部生は高い資質を持ち合わせており、学部の学びをきちんと行えば進路が拓ける」ことを強調。「学生たちの主体性やチャレンジ精神を助けない」と結びました。

進路・就職活動については、西村智朗副学部長が全体的に見られる就職内定率の低下に触れ、「就職状況の速やかな好転は望めないが、早めに将来について考え、情報収集をすることが大切」と話し、社会人の先輩としてアドバイスするなど後方支援を行うといった父母の役割についてもお願いしました。

その後、留学とインターンシップの2グループに分かれた懇談会では、生き生きと体験談を披露する学生に、参加者から具体的な質問が活発に投げかけられるなど貴重な機会となりました。



学生の体験談



自分自身へのチャレンジ だったメキシコ交換留学

国際関係学部
3回生
モンテレイ工科大学(メキシコ)交換留学
小茂田 慧さん

メキシコ人留学生と出会ったことで、彼らのラテン系の陽気さや温かさに魅力を感じました。それを機に、「メキシコという国を知りたい」という素直な気持ちから交換留学に応募。選考には語学力だけでなく成績も重視されるため、一生懸命勉強しました。現地では治安の悪さやルームメイトとのけんかも体験。授業では語学が流暢でなくても発言することが求められるので、録音した授業を後で聞き直して努力しました。その一方、サッカーサークルをつくったり、メキシコ国内やペルー、ボリビアへの旅行を楽しみました。また、洗濯や料理を経験したことで、親への感謝の気持ちも深まりました。そして帰国の日、たくさんの友人が別れを惜しんでくれた時に、自分自身へのチャレンジだった留学の醍醐味を味わうことができました。今後は早期卒業をめざして大学院へ進学し、DMDP(大学院共同プログラム)でスペインのグラナダ大学に留学する予定です。



情熱と計画的な行動が 認められた就職活動

国際関係学部
5回生
三菱東京UFJ銀行内定
和田加奈子さん

DUDP(学位共同プログラム)でアメリカン大学に留学中、学部提携先の読売新聞社ワシントンDC支局で約1年間のインターンシップを経験。帰国後も自由応募で大手の商社や銀行などのインターンシップに積極的に参加しました。インターンシップは企業によって内容も期間もさまざまです。インターンシップが採用に直結する企業も少なくないので、志望する業界や企業の採用形態を早めにリサーチすることが重要です。私が希望の内定を得たのは、「インパクトのある多くの経験が有効だった」と言う人がいますが、そうではありません。企業が聞きたいことはただひとつ、「学生時代に何に取り組み、何を不得、それをどう生かしましたか」ということ。私は中小企業の海外進出を支えたいという思いから、現場を知るために小さな繊維卸企業でもインターンシップを経験しました。内定先からはこのような熱い思いと行動力が最も評価されたのだと思います。

小集団教育を学びの軸に、 真の学力をつける全国有数の文学部として

全体会は、父母教育後援会の小野善三常任委員による事業中間報告から始まりました。次いで木村一信学部長が壇上に立ち、「伝統的な10専攻と、先端的な5プログラムからなる文学部は、全国有数の規模とレベルを誇ります。小集団教育を基本とした恵まれた環境のもと、卒業論文を必修とする厳しい状況の中で学生達は真の学力を身につけます」と、特色を語りました。

続いて、仲山豊秋教授による「現代ことば事情」と題したアカデミックミニ講義が行われました。日本語の乱れが指摘される中、乱れの実態について分かりやすく紹介。言葉の省略、あいまいな表現、フォーマット言葉が多い…など、24もの事例が挙げられました。

例えば、助数詞の消滅について。助数詞とは日本語ならではの素晴らしい表現のひとつであり、箸は一膳、羊羹は一

竿、豆腐は一丁など正しい助数詞があるにもかかわらず、近年では使われないことが多くなりました。また「ガーン」「ドパーッ」といった擬音語で話す若者が多いという指摘も。しかし擬音語そのものに問題があるわけではなく、効果的に使えばイメージの世界が広がることもあると説明されました。「言葉というのは生き物であり、必ず変化するもの。言葉が乱れているという見方がある一方で、今の時代を生き抜く可能性のある言葉が開発されているという見方もできるでしょう。日々驚くべきスピードで変化する日本語に遅れないよう、言葉に敏感に反応し、言葉の意味を十分に検証することが大切です」と、締めくくられました。

その後、3名の学生が学生生活の体験談を述べて全体会は終了し、専攻別懇談会が行われました。



学生の体験談



現場主義の
学びが
大きな決め手に

文学部
4回生

川上遥加さん

1 回生のフレッシュリーダーズキャンプで先輩の話聞き、「やりたいことに積極的に取り組んでいこう」と決意。そこからは、留学を通して積極性やコミュニケーションのすばらしさを実感したり、オリターを経験して人の役に立てる喜びを知ったりと、貴重な経験を積むことができました。また、3回生の1年間、地元・兵庫県の観光親善大使を務め、就職活動と両立しながら全国へのPR活動にも力を注ぎました。このような学生生活があって、就職は念願のエアライン業界へ進むことに。就職活動はゴールでなくひとつの通過点。4年間で培ったチャレンジ精神を持って、これからどんどん前進したいと考えています。



親に支えられ、
充実した
大学生生活に

文学部
4回生

矢原拓斗さん

私 が所属する日本近代史のゼミは実にハイレベルで、最初は何を話しているのかわからないくらいでした。劣等感の中であみ出した学習方法が、ゼミで聞いたことをそのまま親に話すというもの。関心を持って話を聞いてくれるのが嬉しくて、勉強の大きな励みになりました。また就職活動を始めた頃は、漠然と華やかな業界に憧れて広告業界を目指しました。結果的には、父に勧められて説明会に足を運んだ印刷業界に縁あって就職が決まりました。父の言葉がなかったら、きっと知ることのなかった世界だと思えます。親に支えられ、成長できたことを心から感謝しています。



自ら動けば、
きっと夢は叶う

文学部
4回生

岡部祐輝さん

中 学時代から教員に興味があったものの、「水泳・図工・家庭が苦手だから無理だろう」と思い込んでいました。1回生では単位を取るのに精一杯で、将来への目的意識を持てなかった私ですが、サークルを運営したりアルバイトに励んだり、課外活動を通して人づきあいの基礎を学びました。大きな転機となったのが、2回生で経験した小学校へのインターンシップ。子どもたちが「わかった!」と目を輝かせてくれるのが嬉しくて教員採用試験に挑戦。勉強に打ち込んだ結果、小学校教員採用試験に合格することができました。自分から動かなくは大学生生活は始まりません。学び続ける姿勢をここで身につけることができました。

政策科学部

社会の課題を複合的に捉え、 政策を生み出す「政策実践力」を身につける

父母教育後援会の日吉由実常任委員による事業中間報告から、全体会が始まり、次に本田豊学部長から挨拶を行いました。本田学部長は最初に、政策科学とは何かについて次のように説明しました。「例えるなら、『社会分野における医者』です。医者が診断した患者に合う処方箋を書くように、我々は社会の課題に対して、自らの知識や理論を引き出し組み立てながら取り組みます。この政策実践力を身につけることが本学部のコンセプトです」。また、本学が文部科学省の「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に選ばれたことに触れ、「2012年から本学部にも英語コースを開設し、英語で学ぶ日本人と海外からの留学生を受け入れ、国際的な視野を持つ人材を育成します。」と抱負を語りました。

次に岸道雄副学部長が、「都市の景観問題ひとつをとっても、さまざまな学問や立場からの考え方や課題があります

が、学生はそれらを複合的に捉えて、最も望ましい政策を考えます」と学びの一例を紹介しました。そして、本学部の学びの中心をなす小集団教育科目である1回生の基礎演習、2回生の研究入門フォーラム、3・4回生の専門演習・卒業研究の概要を説明した後、「幅広く学びつつも専門性を深めることを念頭に、現場での実践的学習によって社会で活躍できる力をつけてほしい」と語りました。

学生生活については小杉隆信学生主事が、学習・生活面でスムーズに大学に馴染めるように上級生が1回生をサポートするオリター団を紹介しました。さらに、研究成果を発表する「PSエキスポ」で優秀者を表彰していることを伝え、「大学の枠を越えた研究発表会にも学生を参加させるなど、今後もしっかりと研究の動機づけを行いたい」と述べました。

続いて回生別懇談会が開かれ、希望者には個別相談も行われました。



学生の体験談



人のために働く喜びが 味わえたオリター活動

政策科学部
3回生
オリター団副団長
川口まことさん

本

学部の自治会・オリター団の主な活動は、1回生同士または1回生と上級生の交流を深める企画の実施や、基礎演習の運営サポートなどです。近年は合宿やグループワーク、討論形式の交流を実施しており、その中で1回生には、今後の学習や研究につながる学びの基礎を身につけてもらっています。このようにオリター団は、主役である1回生のために何が出来るかを考えて実行する団体です。人のために働いて自己実現をはかるという得がたい体験ができます。また、組織内での自分の立場や、活動終了後にどうありたいかを見据えながら成長することも大切です。私は入学時からいろいろな活動に手を出してきましたが、こうしてオリター団を続けることができたのは、周囲の支えがあったり、企画実施後に参加者から感謝の言葉をかけてもらったから。残りの学生生活では学業をしっかり修め、自分なりの展望を持って過ごしたいと考えています。



苦しい就職活動を経て、 自己成長ができた

政策科学部
4回生
京セラ株式会社内定
林田将平さん

私

が就職活動で気をつけていたのは、以下の4つです。1つめは、「体調管理」。就職活動の最初にエネルギーを使い果たして、面接が始まる本番に体調を崩す友人がたくさんいました。2つめは、「業界を絞らない」こと。興味を持った業界が自分に合っていると思いつくと、仕事の一面しか見えません。絞るのは最後でいいと思います。3つめは、「メリハリをつける」。私の周りでは、就職活動のことばかり考えていた人よりも、大学生活を充実させていた魅力ある人が希望の内定を得ていました。最後は、「人と積極的に話す」です。先輩や卒業生など目上の人から自分の考えの甘さを指摘してもらいました。考えを練り直す作業を重ねることで、面接での変則的な質問にも対応できました。就職活動は苦しいものです。だからこそ、大きく自己成長できる機会です。お子さまが全力で自分の道を切り開けるようにサポートしてあげてほしいと思います。

映像学部

将来の進路目標に応じて学べるカリキュラムを設置し、
実社会で活躍できる人材を育成

まずは父母教育後援会の今西清裕常任委員による事業中間報告から全体会が始まりました。続いて、北野圭介副学部長が映像学部のカリキュラムや授業内容を説明。「映像学部は『アート』『テクノロジー』『ビジネス』の3つをコンセプト。専門性を身につけることはもちろん、総合的な視点で映像を捉えることにより、多面的に物事を考えることにより、多面的に物事を考えることにより、社会の中でしっかりと根を下ろしていける人材を育てたいと考えています。将来を見据え、必要な知識を修得できる4つのフィールドを設置し多彩なカリキュラムを揃えています。また学生の見聞を広めるために、映画監督の山田洋次氏をはじめ、各業界の現場で活躍するプロクリエイターを客員教授として迎えた『クリエイティブ・リーダーシップ・セミナー』という授業を行っています」と、実際の授業風景の映像を交えながら紹介。また学生の活発

な課外活動やその成果の報告がされました。

進路・就職・進学に関しては、大学全体の取り組みや他学部との連携も含めたバックアップ体制だけでなく、映像学部独自の取り組みがあることが紹介されました。3回生以上を対象に、演習を通じた支援を定期的実施することで学生の就職に対する意識を高める「キャリア形成セミナー」や、ゼミごとに「就活委員」を任命し、学部全体で情報共有を行う仕組みを設けていることについて報告がありました。

2名の学生による学生生活活動の発表の後、北野副学部長と大島登志一副学部長の案内で、情報演習室や音響編集実習室など、実際に学生が使用している施設を見学。

見学後は懇談会を開催。父母と教員の活発な意見交換が行われました。



学生の体験談



映画制作の現場を 実体験する充実した日々

映像学部
2回生
縄手佑基さん

私

は、『山田塾』を受講しています。『山田塾』とは、客員教授である山田洋次監督のもとで、商業映画の制作から公開までのプロセスを学べる授業です。入学前から映画制作に携わる仕事をしたいと考えていた私は、入学後、迷わず受講しました。授業では、学生が制作・演出・撮影・照明・録音・美術など分野ごとに分かれ、それぞれの専門家の指導のもと、ひとつの映画を制作します。私はメイキング班に所属。実は希望と違った配属だったため、正直なところ、最初は戸惑いを感じたこともありましたが、最初は、映画制作の全体の流れを見ることができ、またメイキング映像の制作を通して、撮影から編集まで幅広く学ぶことができるので非常に勉強になっています。映画撮影は昼夜問わず行われるので、帰宅が深夜に及ぶことも。他の授業の課題との両立が大変なこともありますが、充実した日々を送っています。



授業から実社会で役立つ スキルを身につける

映像学部
1回生
曾谷尚加さん

映

像業界での就職を夢見ていた私にとって、憧れだった映像学部に入學し、早8ヶ月が経ちました。知識も豊富で志も高い友人から刺激を受けながら、忙しい毎日を過ごしています。映像学部ならではのカリキュラムである『プロデュース基礎演習』では、グループワークの難しさを感じました。メンバー同士の噛み合わない意見をどうすればまとめることができるのかを考える企画会議は本当に大変でした。行き詰った時は、先生方が課題に深く関わりながら指導してくれました。納得のいく結果を残すことができた時、「社会で役立つスキルが身につくこの学部に入學して本当によかった」と実感しました。これからどの専門分野に進むのかは模索中。今の自分のできることは、とにかく貪欲にさまざまなものを吸収すること。多くの経験を通して、自分の目指すべき方向性を見出し、有意義な大学生活を送りたいと思っています。

厳しい就職状況を見据えて、 計画性のある4年間を過ごすことが大切

父母教育後援会の太田勝之常任委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。平田純一学部長より学生生活の過ごし方と留意点について説明があり、「安定した学生生活が送れているかどうかは、夏休みにお子さんの顔を見たときにわかります。生き生きとした表情で元気に学校の状況を話す人は心配ないですが、帰ってきて部屋に引きこもり、何を聞いてもあまりはっきりとした返事がない場合は、気にかけてあげてください。昔は休学といえば怪我や病気によるものがほとんどでしたが、いまや過半数が心のやまいです」と述べました。

また就職活動を念頭においた大学生活に関しては「124単位のうち1回生で35単位、2回生で70～80単位、3回生で100～120単位を取っておくのが理想。これ以下だと就職活動に打ち込むほど授業が疎かになる、授業に打ち込むほど

就職活動ができないという状況が今後考えられます。まずは学校にも慣れ始めた2回生の時点で目標ややりたいことを見つけておくことが大切です」と語り、大学での4年間の過ごし方がその後の人生に影響を与える可能性を話しました。

さらに昨今の就職状況について「昨年から企業の採用活動は、半月～1ヶ月ほど後ろ倒しになっています。我々の予想では、企業の雇用に関するリストラにより、今年よりもさらに来年は厳しい状況にあると考えます」と述べ、依然予断を許さないことを示唆しました。

続いて磯口友希さん(4回生)の司会で、現役の学生2名による就職活動体験の報告がありました。

全体会に引き続き、グループ別懇談会では、経済学部におけるキャリアデザインを取り組みについての報告と、経済学部における履修・成績についての報告をそれぞれ行いました。



学生の体験談



自分から行動し、 失敗を成功につなげる

経済学部
4回生
日本生命内定
横山好貴さん

今

思えば1回生の頃はだらだらと時間をもてあましてばかりでしたが、2回生の時、塾講師のアルバイトを経験したことで私の生活は一変しました。塾講師は保護者からのプレッシャーが非常に強く、安易に合格を口にすれば「勝手なことを言うな」とクレームがきます。ひと言の重みを痛感し、「本気で取り組まなければ、何もできない学生になってしまう」と決心。タイへの短期留学やインターンシップでは、大学のパソコンで立命館大学出身のOBやOGを検索し、自ら連絡を取って職場体験をさせてもらいます。そこで数々の失敗を経験しましたし、怒られることもありましたが、それでも「失敗をさらなる成長につなげられたら」と思い、手当たり次第に1日6社も会社訪問したことも。そんな自分に向いているのは総合商社か保険会社だと考え、就職を決めました。常に何かに興味をもって、つまづきながらも成長したいと考えています。



公務員試験とは、 個人戦ではなく団体戦

経済学部
4回生
東京高等裁判所内定
荒木朋奈さん

私

が公務員を目指した理由は、大卒のキャリアを生かし、結婚や出産後も無理なく働ける職場環境にあるということ。3回生の頃から本格的な試験勉強を開始したのですが、昼間は今まで通り授業に出て、夕方から大学の公務員講座を受講、夜は遅くまで自習室で勉強という生活を1年間続けました。その結果、7つの職種を併願し、総務省と国税専門官、裁判所事務官の3つの職種に合格しました。でもこれは、私の周りの人たちの多くの支えがあってこそ。試験で東京に行く時は単身赴任中の父の元に泊り込み、悩みや愚痴を聞いてもらい、福岡の実家の母にはしょっちゅう電話をかけていました。また、学校の自習室で目標を同じくする仲間たちと励まし合い、面接の練習などを頻繁に行いました。そして、試験前日までつきっきりで指導してくれた公務員講座の先生にもメンタル面から手厚いサポートをしていただきました。今、多くの人に感謝しています。

経営学部

高い専門知識と国際感覚を身に付けた グローバルな人材を育成する

父母教育後援会の井上寿美常任委員による事業中間報告から、全体会が始まりました。齋藤雅通学部長は、「本校は文部省が推進するグローバル30の拠点となる大学であり、2020年を目途に現在の約3倍となる30万人の留学生の受け入れを目指す事業に参画しています。留学生に対する質の高い教育はもちろん、日本人学生の英語力にも力を注いでおり、1ヶ月～1年間海外へ留学した学生は本学部で265名おりました。この数は全学部でもトップを誇ります」と述べました。

続いて、近藤宏一副学部長が経営学部教育の現状について報告。「学生には早くから日商簿記3級の資格を取るよう勧めています。また英語力を高めるために在学中からできるだけ短～長期の留学に派遣します。上級生のゼミナール大会では他大学の学生と日頃の研究成果について議論を交わします。この

ようにさまざまな経営学部のプログラムを利用して、専門知識と人間的に知的な能力を身につけていきます」と語りました。

次いで、佐藤典司副学部長から大学院進学についての紹介がありました。「大学院は研究者や教師になりたい人が目指すところと思われがちですが、今や一般社会においても専門的で深い知識が求められています。2010年度からはビジネスキャリアコース、スペシャリストコース、グローバルコースを設け学生を育成します」と述べられました。

続いて、善本哲夫学生主事からは「立命館の学生はフットワークが軽く、肉体的、直接的な体験を通して自分のやりたいことを見つける力がある」と学生生活の状況について説明がありました。

全体会に引き続き、グループ別懇談会が開かれました。



学生の体験談



手厚い学内サポートをフル活用するのが鍵

経営学部
4回生
亀田製菓株式会社内定
柏木聖也さん

私

の最初の就職活動は3回生になってすぐ、自分が何をしてきたか、なぜそれに取り組んだのかをノートにまとめることでした。授業後は学内企業説明会に毎日参加するなど、キャリアオフィスが主催する就職支援企画に片っ端から参加しました。両親が高い授業料を払ってくれているのですから、学内で利用できるものはすべて無駄にはできません。就職サイトを通じて150社以上にエントリーを行い、SPIや筆記試験の対策を始めました。私はメーカー・商社・金融を志望していましたが、何時間もかけて書いたエントリーシートやSPIで容赦なく落とされ、時には自分がやりたいことを見失いそうになりました。そんな時は、実際に企業まで足を運んで社員に話を聞いてみたり、ゼミの友人や先輩、両親に悩みをぶつけたりしました。特に両親からの一言は重いものでした。普段からのやりとりで信頼関係ができていたからこそ、的確なアドバイスがもらえたのだと思います。



OBと直接話せるネットワークの強さが魅力

経営学部
4回生
香川銀行内定
新谷 夢さん

就

職活動を振り返り、やっておいてよかったと思えるのは『自分史』を書いたこと。幼稚園から大学まで、悩んで乗り越えたことなどを思い出すうち、詳細な自己分析ができました。また、友人や家族とできるだけ話す機会を増やすことも大切です。とりわけ家族は小さい頃から私を見てくれた人であり、自分自身を知る上でも大きな支えとなりました。他にも非常に役に立ったのがOB訪問です。立命館大学には強いネットワークがあり、内定者が就職活動をサポートするジュニア・アドバイザー（JA）、社会人がサポートするキャリア・アドバイザー（CA）といった制度があります。経験・知識の豊富な諸先輩からのアドバイスのおかげで、面接でも緊張することなく自分をアピールすることができました。今は経済悪化の影響で就職活動を始める前から暗い気持ちになりがちですが、どうか悪いニュースに流されず、実りのある学生生活と納得のいく就職活動に励んでください。

理工学部

高い専門性を備えた研究者・技術者を求める 社会の要望に応える教育を展開

最初に父母教育後援会の小山美知子常任委員から事業中間報告があり、次いで坂根政男学部長が壇上に立ち、挨拶を行いました。昨年から続く厳しい就職状況について触れ、「立命館大学全体の内定率は全国平均を大きく上回っています。理工学部、特に修士課程の学生については、それほど内定率の低下は見られませんでした。立命館大学の学生に対する社会からの信頼、高度な専門性を持つ修士課程修了者に対するニーズが高いことの表れでしょう」と報告しました。

理工学部の場合、学部生の4、5割が修士課程に進学します。「教育は一生の宝物」と述べた坂根学部長は、「可能であればご父母の皆様もお子さまの学ぶ意

欲、進学希望を応援してあげてください」と語りました。

オープンカレッジへの参加希望者は昨年の1.2倍。「ご父母の方々の大学に対する期待や要望の大きさと考えます。私たちも身の引き締まる思いです」と述べ、「大学は、学生とご父母の皆様を支えられて存続しているもの。今後皆様のご意見やご要望にしっかり耳を傾けながら、大学を運営していきたいと考えています。ぜひこの機会に忌憚のないご意見・ご要望をお寄せください」と締めくくりました。

次に在学生在が学生生活や研究活動、就職活動について体験談を報告しました。その後は学科ごとに分かれ、個別の懇談会が催されました。



学生の体験談



国際学会での発表や、企業との共同研究を経験

理工学研究科
基礎理工学専攻
博士課程前期課程 2回生

吉光奈奈さん

研 研究者志望の私は、4回生で研究室に配属された時から、大学院進学を想定して研究を始めました。テーマは「地震学」。実験を通して地震が発生するメカニズムを明らかにしようとしています。大学院での学びは学部とは大きく異なります。企業との共同研究も実施します。企業の研究者と肩を並べ、仕事をするのは貴重な経験です。また学会発表は自分の研究に責任を持つことにつながり、研究者として成長する機会を与えてくれます。国際学会では英語で発表や質疑応答も行います。信頼する指導教授がいること、高度な研究を継続できること、奨学金など支援制度を活用できることから、来春立命館の後期課程に進学することを決めました。



先輩達に刺激され、チャレンジ精神を培った

理工学部
ロボティクス学科
4回生

石崎順也さん

大 学生生活を通して培ったもののひとつは、「チャレンジ精神」です。入学当初は何事にも受け身になりがちでしたが、様々なことに積極的に取り組む周囲の友達に刺激され、学園祭への参加やマラソンなどに取り組むようになりました。研究室に配属された当初は、大学院生から勉強不足を指摘されることも多かったのですが、1年間研究に取り組んだ結果、知識量も見違えるほど増えました。研究室の指導教授、大学院生、仲間から沢山の刺激を受け、成長することができました。仲間とは研究だけでなく、時にはサッカーをして汗を流すこともあります。より自分を成長させたいとの思いから、来春大学院に進学する予定です。



「水」と「国際」への関心が、進路選択の決め手

理工学部
環境システム工学科
4回生

毛利直樹さん

3 回生の半ば、就職活動を前に将来の進路を考え始めた時は、志望の業界もまだ明確ではありませんでした。大学が主催する就職説明会に参加した時、何のビジョンもないことに焦りと危機感を感じました。ちょうどこの頃に研究室に配属されたことが将来を考える契機となりました。「水」と「国際」に関心のあった私は、バングラディッシュで地下水に含まれるヒ素について研究する研究室に配属されました。実際にバングラディッシュを訪れ、ヒ素の調査を実施しました。その中で「水」「国際」に関わる仕事への関心が高まっていきました。就職活動中では不安に駆られることもしばしばあります。そんな時、両親に話を聞いてもらうことで気持ちを楽にすることができました。

情報理工学部

全学の国際化プログラムを牽引し、
世界を舞台に活躍できる技術者の育成をめざす

まずは、父母教育後援会の土野池正義副会長による事業中間報告があり、次いで大久保英嗣学部長が、立命館大学の全学部の中でもトップを誇る就職内定率と、そのバックアップに欠かせない教育プログラムについて報告しました。情報理工学部は、就職内定率の全国平均が62.5%にとどまる中、学部では81.5%、大学院では91.2%という高い数値をマークしています。「就職活動で結果を出すためには、自分がやってきたことに自信を持てるように4年間を過ごす姿勢が大切」とした上で、学部としても、企業が求める「国際的に活躍できる技術者」の育成を目指し、英語教育、海外留学、海外の大学との連携などに重点を置いていることを説明。さらに、2009年7月、立命館大学が文部科学省の「国際化拠点整備事業 グローバル30」の拠点校に採択されたことにも触れ、「立命館大学の国際化プログラムの

キーワードの一つが『IT』です。これまでに以上に留学生相互交換にも力を入れ、情報理工学部が先頭を切って国際化を進めていきたい」と、述べました。

続いて登壇した萩原啓情報理工学部教学担当副学部長は、情報理工学部が掲げる教育目標と、学科や研究室の選択、就職活動、卒業研究といった4年間の大まかな流れについて説明しました。また、就職活動に焦点を絞り、情報量・サポート体制ともに日本一ともいわれる立命館大学のキャリアセンターの活用と、進路を決定する時期における親子のコミュニケーションの大切さを訴え、「情報理工学部では企業出身の教員が4～5割を占めており、実社会を意識した教育を実践しています。次代を担う人材の育成を目指し、教員一丸となって取り組みたい」と、その展望を語りました。



学生の体験談



社会に通用する
即戦力が身につきます

大学院理工学研究科
2回生

眞下啓之さん

研

研究者の育成だけでなく、即戦力になる人材の養成も担う大学院。私が大学院への進学を決めた理由の一つは、産官学連携プロジェクトなどを通じて社会に通用する即戦力を身につけることができるということでした。ゼミや研究発表会などで討論をする機会が多いので、高い専門性はもちろん、コミュニケーション能力を培うこともできました。また研究の課程では論理的思考力、問題解決能力、運営管理能力のほか、チームワークが重要となるためリーダーシップや協調性も身につきます。学びにたくさん時間をあてることができることも大学院の大きな魅力。私自身は今後激化するであろう国際情勢に対応できる技術者をめざしているため、大学院の理工国際プログラムを活用し、より実践的に英語を学びました。海外での約1ヵ月に及ぶインターンシップや国際的な研究発表会でそのプログラムの成果も実感でき、大学院に進学して本当によかったと痛感しています。



積極的な就職活動で、
自ずと進路が明確に

知能情報学科
4回生

寺尾和磨さん

大

大学院へ進学するか否かを迷っていた私ですが、約50万人が動く就職活動は、多くの人に出会う貴重な機会。その中で結論を出そうと考え、3回生の6月頃から就職活動をスタートしました。一回生をサポートする「オリター」としての活動やアルバイト、サークル活動をこなしながら、約80社の説明会・セミナーに参加。28社を受け、4月になって、4社から内定をいただきました。第一志望はベンチャー系でしたが、社長に話を聞くと、大手出身者が多く、前職で培った業界全体を見渡す力を生かして起業していることを知りました。そこで私もまずは業界を見渡す目を養いたいと考え、株式会社NTTデータへの入社を決めました。就職活動のポイントは、絶対に一人ではしないということ。広く情報収集をした上で動くことが大切です。私自身は、職業人として先輩である父親に仕事の面白みや辛かったことについて語ってもらったことも、自分の将来を考える上で役立ったと感じています。

生命科学部・薬学部

人類の未来を切り拓くライフサイエンスを創造し、
社会に貢献する人材の育成を目指す

冒頭、父母教育後援会の桑原淳子監事から事業中間報告が行われた後、谷口吉弘生命科学部長が、2学部を代表して挨拶しました。2008年4月に生命科学部・薬学部が開設されて1年半が経過。いよいよ専門科目の授業が増え、本格的な実験も始まったことを報告しました。「両学部とも科目数が多く、日々の勉強はますます厳しくなるでしょう。それだけに充実した学生生活を送り、大きく成長できるに違いありません」と語りました。また人類の未来を切り拓くライフサイエンスを創造する学部として「両学部の卒業生が活躍する領域は、大きく広がっています」と述べました。

続いて藤田典久薬学部副学部長が、「学びと進路」について説明しました。両学部は、環境、医療、材料、エネルギー、バイオテクノロジーなど、21世紀に解決すべき地球規模の課題に応え、

社会に貢献する人材を育てることを目指しています。生命科学部の4学科、薬学部が連携・融合したカリキュラムで総合的なライフサイエンス教育を展開。英語教育にも注力し、3回生からは新たに『専門英語』を開講する予定です。」と解説しました。その他、薬学部においては、1回生から、病院や薬局、製薬企業などを訪れることで学生たちが薬剤師の役割の重要性を認識し、医療人としての自覚を高めていることを紹介しました。さらに「1、2回生のうちからキャリアセミナーを開催し、早い段階から進路への意識を高めることにも力を入れています」とした上で、大学院進学者を4、5割想定するなど、高度な技術者、研究者を育てる熱意が語られました。

次いで、在学生から学校生活や就職活動について報告がありました。その後、個別相談会が行われました。



学生の体験談



計画的に時間を使い、
勉強と課外活動を両立

生命科学部
生物工学科
1回生

木原里侑子さん

食

品や化粧品などの安全について学びたいの思いから、生命科学部に進学しました。大学の授業は想像以上にレベルが高く、前期は思うような成績をあげることができませんでした。その反省から後期は、勉強とアルバイトの両立を目指し、計画的に時間を使うよう努めています。後期は、週4日授業を受ける他、実験などにも取り組むようになりました。放課後は平日は1時間以上、土・日曜は3時間以上勉強することが目標です。家だけでなく、空き時間に図書館で勉強するなど時間を有効に使うことを心がけています。勉強だけでなく、学生生活も思い切り楽しみたい。そう考え、後期から京都府丹後地域の村おこしを支援するサークルに参加しています。週末に泊まりがけで丹後へ赴き、稲作などを体験する予定です。他にもアルバイトや好きなアメリカンフットボール観戦など、毎日予定がぎっしりです。息つく暇もないほど忙しいけれど、大きな充実感を感じています。



大学院で専門性を磨き、
技術職で内定

理工学研究科
博士課程前期課程 2回生
横浜ゴム株式会社内定

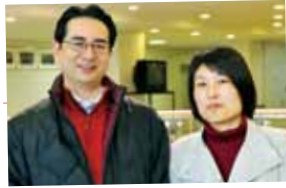
村瀬慶介さん

私

が進路について考え始めたのは、学部の3回生の時でした。「将来何をしたいのか」と自分に問い、「大学で得た知識を生かしてモノづくりをしたい」と思い至りました。それには、より専門性を高める必要があると考え、大学院への進学を決めました。大学院では、「液晶」をテーマに研究をしています。私のように将来、技術職・研究職を志望するなら、大学院でより高度な学びを得ることは、大きな力となります。実際、今年の厳しい就職活動では、採用試験で出会った技術職志望者の多くが大学院生でした。大学院では、議論や発表の機会が多く、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が磨かれます。また自分で自主的に研究を進める中で、物事を論理的に考える力も鍛えられます。企業からは、こうした学部では得られない、より高い能力が求められていると感じました。就職活動では、自分の意見をはっきり言う姿勢を貫き、希望の企業に内定を得ることができました。

Parents' Voices

天池さんご夫妻
国際関係学部 1回生



大学や学部についていろいろ知りた
いと思い、参加しました。学生生活
講演会では、「下宿生は月に1度し
か親に連絡しない」と聞いて驚きました。自宅から通学している息子は、
大学のことをよく話してくれます。野球同好会とオリター活動に加え、
留学に興味を持ち、エクステンションセンターでTOEICの講座を受けて
いるので多忙ですが、楽しく過ごしているようです。学部別懇談会では、
進路についてもうかがえたのがよかったです。

皆川さんご夫妻
映像学部 3回生



大学入学後、会う度に成長する娘の
学生生活の様子が知りたくて出席し
ました。初めて施設を見学し、娘が
実際に使っていることが信じられない程の充実した設備、器材に、大変
驚いています。また大学側のキメ細やかなサポート体制も知ることがで
き、入学させてよかったと実感しています。娘は学部の1期生なので就
職に関する事が一番心配です。講演会で聞いた「親としての心構え」を
忘れずに、見守っていきたいと思います。

岡田さんご夫妻
産業社会学部 2回生



厳しいとささやかれる就職活動の現
状を知りたくて参加しました。キャ
リアオフィスなど立命館ならではの
手厚いバックアップ体制や、就職活動の詳しいスケジュールがわかり、
十分な収穫があったように思います。何より就職活動を終えた学生の皆
さんがイキイキと語っておられる姿を見て、「きっと私達の子どももこ
のように成長してくれるだろう」と信じられるように。たとえ離れてい
ても、温かく見守りたいと感じました。

市川さんご夫妻
理工学部 1回生



親元を離れ、一人暮らしをしながら
大学に通う息子がどんな大学生活を
送っているのか、その一端に触れら
れればと参加しました。ボランティアサークルに入り、インドで支援活
動をするなど、楽しみながら過ごしている様子。これからもさまざまな
ことに挑戦して、成長してほしい。今日は、理工学部の卒業生の約6割が
大学院に進学するという話を聞いて、息子が望むならぜひ進学も応援し
てやりたいと思いました。

南さんご夫妻
情報理工学部 1回生



学科選択の時期が迫ってきている
ので、その際にどのようなことに注
意すべきなのかを知っておきたいと
思い、キャンパスの見学も兼ねて参加しました。就職状況や就職活動の
体験談を聞いたことで、将来の進路も含めて、どの学科に進むかを真剣
に考えなければならないのだと実感できたことは、大きな収穫でした。
息子が相談してきたときに、参考になるアドバイスがしてやれるかなと
思っています。

久保さんご夫妻
経営学部 3回生



去年の秋に続き、今年も父母教育懇
談会に参加しました。先生方のお話
を伺って、一人ひとりに対して妥協
せず、熱心に教育・就職支援に取り組んでおられる様子が伝わってきま
した。娘が今年3回生で就職に就くために国家試験を目指していますが、
今日のお話を参考に、他にも違う選択肢がたくさんあることを提案した
い。アドバイスというよりも、進路を考える上でヒントになるようなこ
とを話してみようと思います。

委員懇談会 (衣笠・BKC)

衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで委員懇談会が開催
され、全国各地の父母委員と大学選出役員、総勢123名
が集いました。「テレビ会議」を通して2009年度事業の
進捗状況が報告され、その後は各キャンパスで多様な意
見交換が行われました。

〈委員懇談会次第〉

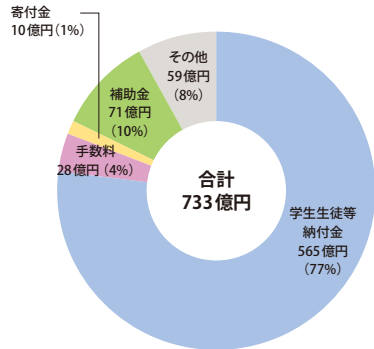
- | | |
|---------------|---|
| 1 大学代表挨拶 | 川口清史 総長(父母教育後援会 名誉会長) |
| 2 父母教育後援会代表挨拶 | 土野池正義(父母教育後援会 副会長) |
| 3 大学選出役員紹介 | 衣笠/中村 正 常務理事(父母教育後援会 顧問)
BKC/上田 寛 副総長(父母教育後援会 副会長) |
| 4 会務報告 | 石井秀則 教学部長(父母教育後援会幹事長) |
| 5 予算額修正について | |
| 6 懇談(各キャンパス) | |

2008年度財務報告・2009年度予算(概要) ※「+R Report」より抜粋

立命館大学の2008年度財務状況および2009年度予算についてお知らせいたします。

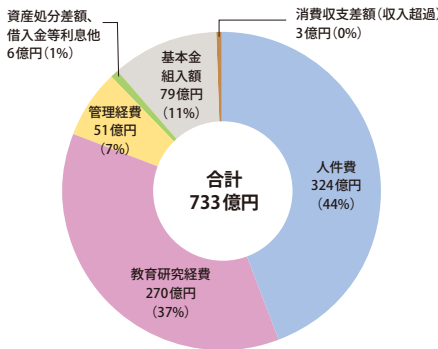
立命館学園 2008年度の収入・支出状況

帰属収入



帰属収入 前年度に比べ4億円増加となりました。
基本金組入額 施設整備や奨学金充実により79億円を組入しました。
消費収入 帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入は654億円です。

消費支出・基本金組入額・消費収支差額



人件費 教員人件費は203億円、職員人件費は102億円です。
奨学金 教育研究経費に含まれる奨学金(給付型の学内制度による)は43億円です(各校の合計)。
消費支出 前年度に比べ33億円の増加となりました。

消費収支差額

消費収支計算書は学校法人の経営の状態を表します。学園の2008年度決算では3億円の収入超過でした。立命館では消費収入(帰属収入-基本金組入額)と消費支出が均衡となるように財政運営をおこなっています。

基本金組入額

2008年度は、施設整備や奨学金への積み立てなどを行い、79億円を基本金に組み入れています。帰属収入に対する比率は11%です。

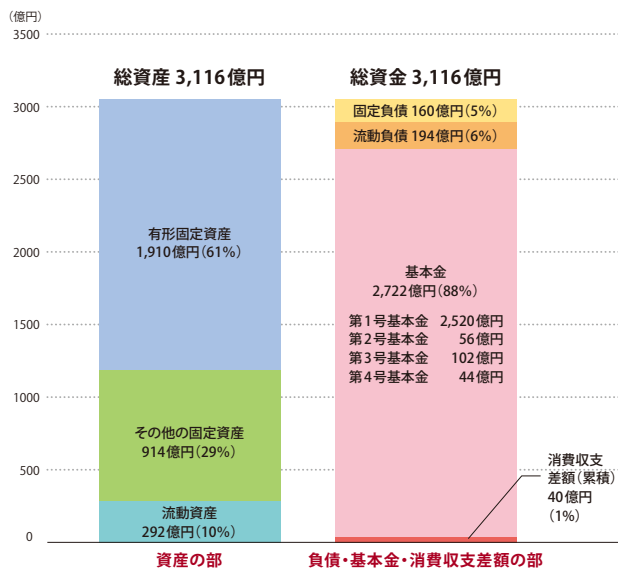
自己資金

貸借対照表は学校法人の財政状況を表します。2008年度末では、自己資金(基本金+累積消費収支差額)が2,762億円、他人資金(負債:借入金や学校債など)が354億円です。総資金に占める自己資金の比率は88.6%で、安定した財政状況となっています。

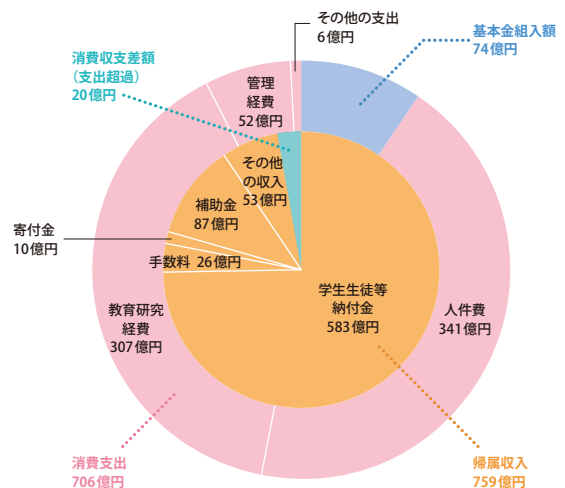
ホームページでの情報公開

(学園財政の詳細は、計算書類 http://www.ritsumeiji.jp/public-info/public02_j.html、事業報告書 http://www.ritsumeiji.jp/profile/a08_j.htmlをご覧ください)

2008年度末 総資産・総資金に対する構成比例

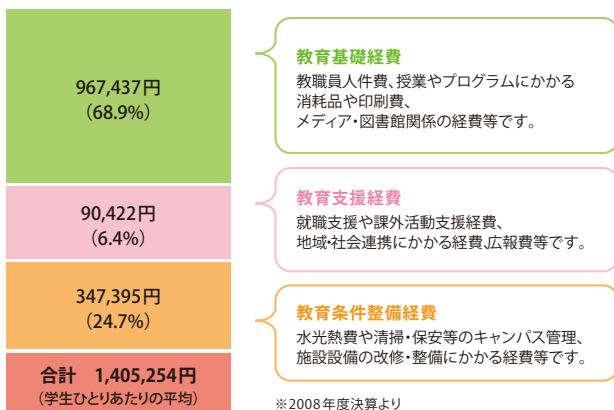


2009年度予算 ※当初予算



関連資料

● 学生ひとりの教育経費



● 経済的困難を抱える学生を支援する奨学金等の緊急拡充措置を実施(2009年度)

立命館大学では学生の学びと成長を支える奨学金制度を用意しています。その中で、経済的困難を抱える学生を支援する奨学金では、昨今の深刻かつ急激な経済環境の悪化を受けて、奨学金を支給する人数を大幅に拡充しました。

支給人数：通常780名→2009年度1,485名(拡充を行った奨学金制度)

【在学生】「立命館大学修学奨励奨学金」を約500名分拡充(750名→1,250名)

【新入生】「立命館大学緊急入学時給付奨学金」を約180名分拡充(20名→200名)

「立命館大学学内推薦入学者奨学金」を約25名分拡充(10名→35名)

2008年度 支給実績	人数	総額(千円)
西園寺育英奨学金	725名	417,201
入学試験成績優秀者特別奨学金	291名	154,675
修学奨励奨学金	750名	283,635
大学院特別奨励奨学金(前期)	420名	93,788
大学院特別奨励奨学金(後期)	418名	93,915
大学院特別育英奨学金	407名	183,395
法科大学院奨励奨学金	98名	73,989

アカデミック 京都 ウォッチング

Academic
Kyoto
Watching

立命館大学の朱雀・衣笠キャンパスのある京都。アカデミック京都ウォッチングでは、歴史深いこの地の名所をご父母の皆様ご案内し、毎年ご好評をいただいています。2009年は11月22日(日)に開催。13コースを設定し、各コースのテーマに沿って、立命館大学の教員によるミニ講義を受けていただいた後、それぞれの探訪に出発しました。あいにく雨模様となったものの、見事に色づいた秋の風情とともに、一般の観光ツアーでは得られない京都の魅力を満喫していただく一日となりました。

各コースのご案内

京都歴史回廊 ハイライト

京都歴史回廊協議会が推奨するコース。世界遺産・仁和寺の非公開茶室飛瀟亭・遼廊亭を特別に拝観。大覚寺の非公開書院・庭湖館で抹茶をいただく機会もありました。

相国寺の至宝と 京体験

銀閣寺で非公開の襖絵、相国寺で日本最古の法堂建築を特別拝観。老舗旅館三木半では昼食後、投扇興、聞香など京都に伝わる雅な遊びを体験しました。

世界遺産めぐりと 宇治茶体験

世界遺産である平等院の他、東寺では五重塔の初層内部を見学。石臼で茶を挽き、茶を点てる体験も。黄檗山萬福寺では中国風精進料理・普茶料理を味わいました。

京都自然探訪と 町家訪問

西山から嵯峨野まで秋の自然を満喫する行程。善峰寺、光明寺のみじ道、常寂光寺と、見事な紅葉を愛で、富田屋では、伝統的な京町家や調度類を見学しました。

理工学部山崎先生と歩く 一嵯峨野の歴史的風景

平安時代皇族・貴族が別荘を建て、その後も文学や謡曲の舞台としても取り上げられる嵯峨野。歴史的背景を学びながら、落柿舎、野宮神社、天龍寺などをめぐりました。

文学部中西先生と訪ねる 「源氏物語千年紀」余韻

仁和寺、二尊院、大覚寺、大原野神社と、「源氏物語」にゆかりのある場所を探訪。平安王朝の作品世界に浸りながら、各寺院や秋の紅葉を堪能しました。

文学部山崎先生と訪ねる 一京都水紀行

下鴨神社を皮切りに、南禅寺水路閣、琵琶湖疏水、裏千家今日庵、月桂冠大倉記念館など、「京都と水」にかかわりの深い地を訪れ、古都の風土と文化にふれました。

文学部瀧本先生と散策する 一近代文学(作品)の舞台(京都)

夏目漱石、志賀直哉、谷崎潤一郎など数々の文学者に愛された京都。等持院、相国寺、永観堂など文学作品の舞台をたどりながら、作品世界に浸りました。

文学部三枝先生と歩く キリスト教と茶道 ～南蛮文化の跡を訪ねる～

京都の茶道とキリスト教の意外なつながりをひも解きながら、大徳寺高桐院、北野天満宮、洛西バプテスト教会など、南蛮文化ゆかりの地を探訪しました。

文学部佐古先生と訪ねる ～宇治の雅と哀(あわれ)～

「源氏物語」宇治十帖の舞台として知られる宇治。橋姫神社、平等院、宇治川、源氏物語ミュージアムなど作品にかかわる場所や史跡をめぐりました。

文学部二本松先生と訪ねる 伝説(あやかし)の朝廷(みかど)

歴史の闇に隠された「裏の歴史」に迫るコース。仁和寺、法金剛院、今宮神社、晴明神社などを歩き、平安朝を支配したという鬼と陰陽師に思いをばせました。

文学部井上先生とめぐる 京の食文化

菓子、野菜、漬け物など「千年の都」京都に伝わる食文化を知る行程。和菓子づくり、京料理と手と舌で味わう他、京酒屋では、もてなしの心も感じました。

文学部桃崎先生と訪ねる 足利氏ゆかりの寺院と 京都御所:現代京都の源流

能や狂言、茶道、華道が開いた室町時代に焦点を当て、等持院、金閣寺、相国寺、京都御所と名所を歩きながら、一味違った京都の一面を垣間見ました。



あ や か し み か ど

文学部二本松先生と訪ねる伝説の朝廷

「表の歴史」には記されない、平安時代の「裏の歴史」、人心がつくりだした伝承に焦点を当て、ゆかりの場所をめぐるコース。「暗闇の朝廷と戌亥の聖域」と題したミニ講義で語られた平安京に潜む鬼の足跡を、現代の京都にたどり着きました。

コース 仁和寺御殿 ▶ 法金剛院 ▶ 昼食・西陣魚新 ▶ 今宮神社 ▶ 一条戻り橋・晴明神社 ▶ 五条天神社 ▶ 東寺・観智院



平安京の天狗の伝承に 思いをはせながら 世界遺産・仁和寺を見学

最初に訪れたのは、世界遺産にも登録されている仁和寺。平安京の戌亥の方位を鎮める「もう一つの朝廷」であり、寺域の片隅には失意の帝たちの妄念がうごめくという。それゆえに呪いの血書経さえ秘蔵されたのではないかと。ミニ講義で解説された伝承を思い起こしながら、白書院、黒書院、宸殿などからなる御殿を見学しました。

続いて訪れた法金剛院では、初夏の頃、極楽浄土を思わせる蓮の花が咲き誇るという池の周りを散策しました。

今宮神社、晴明神社をめぐり 鬼と陰陽師が活躍した あやかしの世界へ

昼食は、御所に仕えた宮廷料理の系譜をもつという老舗「西陣魚新」で、「有識西陣弁当」を味わいました。食事中には、立命館大学雅楽会による雅楽の演奏も行われました。平安時代の装束に身を包んだ学生が奏でる雅な音色に耳を傾け、一行は舌と耳ではるか平安京の風情を楽しみました。

午後はまず、今宮神社に足を運びました。平安時代、疫神を祀ったという神社の由来や、京都三大奇祭のひとつ、やすらい祭を司った人々について、興味深い解説を聞きながら、境内を歩きました。

続いて、陰陽師・安倍晴明を祀ることで名高い晴明神社、晴明が橋の下に十二神将を隠していたとの言い伝えが残る一条戻り橋を探訪。暗闇を支配す

ると考えられた鬼と、それを操ったとされる陰陽師たち。一条戻り橋の下で鬼が駆け巡ったという虚空を見上げ、参加者の方々は、不思議な感慨に包まれたのでした。

続く五条天神社では、江戸時代以前、水を司って染めものをなりわいとする一方、兵法にも携わったという染物師の伝承が語られました。

紅葉が美しい 観智院の庭を眺め 抹茶をいただく

最後は、東寺の塔頭観智院へ。書院で宮本武蔵の筆と伝わる床の間の「鶯の図」と襖絵の「竹林の図」を見学しました。木々が鮮やかに色づいた庭を眺めた後、抹茶と茶菓子をいただきました。

ご父母は思い思いに話に花を咲かせ、京の都に隠された不思議な物語をたどった充実の一日に幕を閉じたのでした。



京都歴史回廊ハイライト

一千年以上ものあいだ首都が置かれるという、世界的にも稀な歴史を歩んできた京都。それ故、国宝の20%、国指定重要文化財の15%を有し、あらゆる時代の面影を今に伝えています。このコースでは、多くの歴史的遺産の中でも、京都歴史回廊協議会が推奨する寺院の特別拝観を中心に訪ね歩きました。長く都として栄え、今なお学際的に余響をもたらしている『源氏物語』の舞台ともなった地の雅な風情を肌で感じながら、晩秋の嵯峨野ならではの見事な紅葉を堪能しました。

コース 仁和寺(特別拝観：飛瀧亭・遼廓亭) ▶ 昼食(退蔵院) ▶ 妙心寺(法堂・浴室) ▶ 大覚寺(特別拝観：庭湖館)



平安時代の風雅な名刹で 特別拝観の茶室と 見事な紅葉を堪能

最初に訪れたのは、現在は真言宗御室派の総本山であり、華道御室流の家元でもある「仁和寺」。かつて、創建者である宇多天皇が出家後に住まいとし、法皇として政治的影響力を発揮したことから「御室御所」と称されました。史跡に指定されている広大な境内には、国宝の「金堂」をはじめとする気品漂う建造物が立ち並ぶほか、彫刻などの宝物の多くも国宝・重要文化財に指定されており、1994年には「古都京都の文化財」の一部として世界遺産にも登録された名刹です。

一行はまず、仁和寺本坊の「御殿」へ。

近世初期の皇居を彷彿とさせる「宸殿」から庭園へと抜け、重要文化財に指定されている非公開の茶室を特別拝観しました。一つは仁和寺の門前にあった尾形光琳の屋敷から移築された遼廓亭。参加者は「異なる景色が楽しめるように」と微妙に高さを違えて配置された窓や、広く見せるための工夫がなされた茶席などに見入っていました。そしてもう一つは、光格天皇の好みで建てられた「飛瀧亭」。小さな躰口の代わりに障子を使った貴人口が設けられており、周囲の木々も眺めることができる開放感漂う設計が特徴です。一服をいただきながら四季を味わう贅沢なひとときに思いを馳せた後、一行は紅葉の名所としても知られる境内を散策し、平安時代から変わらず

人々を癒してきた美しい風景を堪能していました。

禅宗史を語る上で欠かせない 「妙心寺」とその塔頭寺院で、 わび・さびの世界に触れる

参加者は、臨済宗妙心寺派大本山「妙心寺」の10万坪を超える山内に点在する塔頭寺院の一つ、「退蔵院」へ向かいました。退蔵院は、昭和の造園家・中根金作による全国でも有数の名園「余香苑」、室町時代の画家・狩野元信作庭の枯山水庭園を擁する屈指の古刹として知られています。昼食は、「余香苑」を望む広々とした茶室「大休庵」にて、立命館の校友であり、父母教育後援会員でもある主

ミニ講義

「源氏」の遺響と平安京 —朱雀門の歴史的 위치—

講師: 杉橋隆夫 先生(文学部教授)

2008年の『源氏物語千年紀』は、社会的に広く取り上げられ、立命館大学でもいくつかの研究会や授業が催されました。その後も貴重な資料や新しい事実が発見されるなど、今年に入っても、千年紀の遺響はなお続いているといえます。

本学では現在、文部科学省「グローバルCOEプログラム」のもと、さまざまなプロジェクトを立ち上げて研究活動を展開しています。その一つとして我々は、平安時代の日記から都の貴紳が移動した通りや行動範囲をデータ化し、『源氏物語』の主要舞台・平安京における貴族たちの行動経路の可視化に取り組みました。結果、中期には東北部に集中していた彼らの行動範囲が、後期には南部にまで拡大した事実が知られ、摂関政治か

ら、平安京の南東部に拠点が置かれた院政への政治構造の変化を、貴族の移動経路の変化という観点から視覚的に確認することができました。また、『源氏物語』では、光源氏が晩年に南の六条院を拠点とし、天皇の父親として権力を行使していた様子が描かれており、紫式部が来たるべき院政という政治形態を予見していたとも想像されるのです。

本日、皆さんのツアーが出発する、この朱雀キャンパスは、平安京のメインストリート・朱雀大路に面し、紫式部も出仕していた宮城(大内裏)の正門・朱雀門は、ここから朱雀大路に沿って少し北上した位置にありました。付近の発掘成果も報告されています。京都観光をされる上での予備知識として、ぜひご記憶、レジュメを随時参照いただき、今日1日を楽しんでください。



人が営む「京料理 萬長」の心尽くしの料理をいただきました。

しばしの休憩の後は、現地ガイドの案内のもと、退蔵院内をゆっくりと見学。数々の名園の繊細な構造に始まり、癒しを与える音として近年注目されている水琴窟の仕組み、重要文化財に指定されている方丈や大玄関といった建造物の特徴、さらに退蔵院が所蔵(京都国立博物館に寄託)する初期水墨画の代表作である国宝「瓢鮎図」に描かれている内容に至るまで丁寧な解説がなされ、わび・さびの世界に足を踏み入れたような気分に包まれました。

その後、かつて花園天皇の離宮として造営され、花園天皇の退位後、禅寺に改められた「妙心寺」を訪れ、重要文化財

の「法堂」と「浴室」を観覧。儀式などを行う場所として使われた「法堂」の天井には、狩野探幽法眼守信による大傑作「雲龍の図」があります。参加者は、見る方角によって変化するという龍の力強い表情に見入り、楽しそうにその感想を語り合っていました。

皇室ゆかりの寺院「大覚寺」で心洗われる絶景に出会い、平安時代の「遺響」を体感

最後に訪れたのは、平安初期に嵯峨天皇の離宮として建立され、弘法大師・空海が幾度も立ち寄ったという「大覚寺」。ここは、真言宗大覚寺派大本山、心経写経の根本道場、嵯峨天皇に始まるという

華道嵯峨御流の総司所であり、境内にある「大沢池」などは、映画やテレビドラマなど、時代劇の撮影がよく行われることでも有名です。

まずは、襖絵が美しい非公開書院「庭湖館」にて抹茶をいただき、嵯峨天皇や弘法大師の尊像を祀る「御影堂」にて法話をいただきました。修行僧による案内で、桃山時代の書院造りに狩野山楽など日本を代表する画家たちの障壁画が飾られた重要文化財「正寝殿」や、本堂である「五大堂」などを見学し、日本最古の庭苑池「大沢池」へ。「1200年前の景色を今も見ているのですよ」という修行僧の言葉に、一行はしばしその場に立ち止まり、「平安時代の遺響」ともいふべき心洗われるような絶景に見とれていました。

RITSUMEX '09 in名古屋 父母教育後援会企画

プレミアムトークショー

Premium
Talk Show

2009年9月26・27日、名古屋にてRITSUMEX'09in名古屋が開催されました。27日には、父母教育後援会主催でトヨタ自動車株式会社代表取締役会長である張富士夫氏による開催記念講演会、校友である前東京ヤクルトスワローズ監督古田敦也氏と、元シンクロナイズドスイミング選手武田美保氏、立命館総長の川口清史氏が加わったトークセッションを行いました。父母教育後援会会員である父母約660名が会場に足を運び、各分野の第一線で活躍されていた方々による貴重なお話に聞き入っていました。

開催記念
講演会

日本の将来に向けたひとづくり

【講師】張 富士夫氏（トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長）

厳しい経済状況の時こそ 次の飛躍に備える好機

すでにご承知のように、昨年いわゆる「リーマンショック」によって、世界的な大企業から町の小さな商店まで、多くの企業が厳しい経済状況に陥りました。トヨタ自動車も

例外ではありません。自動車の販売台数は、全世界で約3割も減少しました。

しかし実は企業経営において、浮き沈みはつきものです。これまでも自動車業界では、1965年以降の自動車の貿易自由化、'70年代初めのオイルショック、'80年代の日米貿易摩擦などさまざまな苦境に直面し、そのたびに先輩方が中心となって乗り切ってきました。今度は私たちが先頭を切り、立ち直る時だと肝に銘じています。

悪いことばかりではありません。好景気の際は、引きも切らない注文に応えるため、生産や物流の効率が落ちても、また多額の設備投資をしてでも、増産を優先しなくてはなりません。すると次第に経営にムダが生ま

れます。反面減産期は、余計なお金を使えない分、知恵を出し、効率化を図ります。今こそ経営体制を改善し、次の飛躍に備える好機だと考えています。

「教育」と「訓練」を重視する トヨタの人材育成

困難は、人材育成にもひと役買います。私が若い頃、いわゆる「トヨタ生産方式」を体系化した人物として知られる大野耐一元副社長によく言われたものです。「誰もが無限の知恵を持っている。しかしそれは、困らないと出てこない。私の役割は、お前たちを困らせることだ」と。困難にぶつかると、それを克服するために知恵を絞ります。そうして山を乗り越える中で、課題を解決できる強い人材が育っていくのです。

トヨタ自動車では、人材育成において、「教育」と「訓練」の二つを重視しています。教育



とは、知らないことを教わることであり、訓練とは、学んだことを繰り返し実行し、それを身につけることです。「教育」としては、キャリアに応じた研修プログラムを用意しています。一方「訓練」の方法としては、ジョブローテーションでさまざまな仕事を体験すること、またその中で困難にぶつかり、それを克服する体験を積むことを大切にしています。

困難を乗り越える仕事を通して 企業に育てられた

私自身を振り返っても、広報、土地買収、生産管理などさまざまな仕事を体験し、その中で成長したという実感があります。中でも印象深いのは、生産調整という部門で、工場などの現場の改善に取り組んだことです。法学部出身で根っから文系の私が、技術者の揃う生産現場でどんな改善策を打ち出せばいいのか、最初は戸惑うことばかりでした。さまざまな方法を試しては失敗することの繰り返し。しかし「できません」と逃げることは許されません。心強かったのは、「誰もお前が一度でできるとは思っていないよ」という先輩の言葉です。考えるチャンスを与えてくれ、最後まで続けさせてくれたからこそ、目標を達成できた。この時の経験は、後にアメリカで新工場を立ち上げ、人材育成に取り組んだ時にも大いに役立ちました。今でも「先輩、企業に育てられた」という気がしています。

日本の強みを生かし 日本の発展に貢献する人材を 育てたい

ところでアメリカと日本の企業では、人材育成についての考え方が大きく異なります。アメリカの企業で求められるのは、専門性と即戦力です。業績によって給与や昇格が決められ、正当に評価されないと感じた人は躊躇なく転職します。

一方日本では、基礎能力を持った人材を採用し、企業の中で育てるのが一般的です。企業内に教育機能を備えるとともに、さまざまな仕事を体験させ、時間をかけて適性や専門性を育てていきます。いうなれば従業員を家族のように温かく扱うのが、日本の企業のやり方です。そうすると従業員に企業への忠誠心が生まれ、それが結果的に勤勉に働いたり、高品質の製品を生み出すことにつながります。長年にわたってトヨタの品質が世界で

高く評価されてきた背景には、こうした企業体質もあるのです。しかし反面、今日のような不況時には、教育にかかるコストや従業員数を安易に削減できないといったデメリットも生じます。

日本、アメリカ、どちらの方法にも一長一短はありますが、私は日本の良さ、強さを伸ばしていくことが大切だと考えています。資源の乏しい日本にとって、モノづくり産業は、極めて重要な役割を担っています。グローバル競争がますます激しくなる今後も世界とわたり合っ

ていくためには、「人材」が不可欠です。これからは大学などの教育機関と企業がそれぞれ役割を分担しながら、日本の発展に貢献する人材を育成していきたいと考えています。



トークテーマ:「求められる人物像」

記念講演会に続いて行われたトークセッションでは、本郷真紹副総長が進行を務め、張氏、古田氏、武田氏と、川口総長が、企業や社会で求められる人物像と、人材育成における大学の役割について語り合いました。

「強みを生かす」という張氏の話に、自身の経験との共通点を見出した武田氏。身体的ハンデを練習によって克服した経験と、成長を支える指導者の役割について語りました。古田氏からは、求められる能力について、「問題を発見するだけでなく、それを解決する能力を育てる必要がある」との見解が示されました。

川口総長は、立命館での人材育成においても講演でも語られた「訓練」や、多様な個性のぶつかり合いなどが重要だとし、「学生同士が学び合い、育ち合う環境をつくっていきたい」との抱負を述べました。最後に張氏は、将来を担う若者に望むこととして、「競争になれること」「他者のために生きること」にやりがいを見出すこと」「感謝すること」の3つを挙げ、締めくくりました。



立命館総長
川口清史氏



トヨタ自動車株式会社代表取締役会長
張 富士夫氏



前東京ヤクルトスワローズ監督
古田敦也氏



元シンクロナイズドスイミング日本代表
武田美保氏



[進行] 副総長
本郷真紹氏

RITSUMEIKAN CAMPUS LANDSCAPE

11月に開催された「2009年度立命館大学学園祭」。今年のテーマは「spaRkle (スパークル)」。「個々の学生が“きらめき”、相互に“きらめかせる”学び合いの様子、また、学生文化そのものを“きらめき”として、大学をとりまく社会へ向けた発信を行っていく」という想いが込められています。今年も学生をはじめ、地域の方々や校友、父母といった大勢の来場者でにぎわいました。

B K C

BIWAKO KUSATSU CAMPUS



衣笠
キャンパス

KINUGASA CAMPUS



📖 有賀ゼミ 産業社会学部スポーツ社会専攻 有賀郁敏教授 📖 ゼミテーマ: 余暇社会の歴史と現代

有賀ゼミでは「余暇」について様々な角度から迫った研究が展開されています。ゼミ生同士の議論も活発で、時にはよきライバルとして切磋琢磨しながら成長しています。ゼミを取材し、有賀教授のお話をうかがいました。

ゼミ紹介

膨大な読書量から培われる力

産業社会学部 4回生 三田裕一 さん

有賀ゼミの研究テーマは「余暇」です。これまで、私たちが取り組んできた余暇の研究には、若者文化を捉えるものや、レジャー施設に関すること、さらに労働の分析などが挙げられます。これらを研究するにあたって有賀教授が指定した課題図書を読み、しっかり考察するという作業を行いました。非常に厳しかったのですが、この経験を通じて、物事に対して、様々な捉え方や批判的に読み解く力がゼミ生に備わってきていると思います。そして「社会学」という学問について、少しずつイメージ化されています。

有賀ゼミはハードなゼミです。学びに妥協することはありません。しかし、厳しさの半面、確実に力が付いていることをゼミ生は実感しています。そして、余暇のゼミですので自分たちが楽しむことも忘れていません。様々なイベントを企画し、メンバーたちで楽しむことを大切にしています。



ゼミの雰囲気はいつも温かく、アットホームなものになっています。有賀教授はゼミ生のことをいつも気にかけてくれています。厳しい指導の一方で、私たちの研究を温かく見守ってくださいます。就職活動の時期にはアドバイスをいただくほか、ゼミ生の悩みをゼミ全体で共有して全員で就職活動を乗り切ろうという環境を作るなど、勉強だけでなく私たちが抱える将来の不安にも真剣に向き合ってくださいます。

私は余暇という言葉に興味を持ち、この有賀ゼミを選びました。今でもその深い興味が無くなることはなく、それが学び・研究へのモチベーションとなっています。このゼミでの集大成として、卒業論文を最高の形で上げることが今後の抱負です。ゼミ生全員が最高の研究を終えて、笑顔で卒業したいです。



最高の卒業論文に向けて、ゼミ生たちは一生懸命です。



Schedule <予定>

● 3回生

前期 課題探究に必要な「知」を吸収するトレーニング期間、ゼミ合宿
後期 テーマ確定し、研究スタート、3回生論文作成

● 4回生

前期 進路就職活動支援期間
後期 卒業研究作成、発表や論文の指導



Interview

ドイツのトゥルネン協会を研究

私の研究は「ドイツにおける体操（トゥルネン）協会の生成・展開過程の究明」です。体操はドイツ語でトゥルネンといますが、19世紀初頭に生成した体操協会の特徴や、協会の活動をドイツの三月前期、1848/49年革命期の社会状況に照らしつつ実証し、この体操協会を中心としたアソシエーション（組織や団体）についての歴史研究を行っています。そして、人との関わりが希薄化しつつある現代社会の問題点と見比べながら、課題解決に向けて追究しています。

体操協会は19世紀のドイツのアソシエーションを代表する協会組織で、活動の広がりや多面性の面で特徴的です。合唱、読書などの社交も取り入れ、さらに自主消防団を結成して地域の消火・救援活動の担い手になるなど、社会参加も果たしていました。

「協会」の歴史を切り開く

体操協会は、同時期の他のアソシエーションと同様に様々な活動を展開しています。そこには会員間の平等、議論の重視という「個」を浮き彫りにした市民結社としての近代的側面とともに、職人の名誉の尊重や遍歴職人会員に対する各種支援に見られる、ある種伝統的な「共同性=絆」も見受けられます。このような市民、あるいは民衆の協会組織に投影された思想や行動を歴史の表舞台上に登場させたいと思っています。昨今、公共性の視点から「協会史」研究が再評価されていますが、若い頃は「自分が切り開く」という思いで、この分野に飛び込みましたね。

「研究成果を書くこと」に対する志を大切に

ゼミでは「余暇社会」について社会科学的に探究しています。社会といっても色々な角度から捉えることができ、学生たちはそれぞれバラエティーに富んだテーマを選定しています。

このゼミでは3回生と4回生で、それぞれ論文を書きます。3回

生では設定したテーマについてじっくり吟味した上で「自分の研究は社会の役に立つんだ」という壮大な思いと、書くことに対する志を持ち、課題を解決する力をつけるよう、指導しています。こうした基礎となる力をつけた上で、4回生は卒業論文に挑戦します。そのため、ゼミ生には膨大な量の書籍・論文を読み込み、とにかく調べるよう徹底指導しています。

そもそも研究とは「書くこと」だという観点から、情熱を込めて書いた文が人々の批判の眼差しの中に置かれ、評価を受け、そしてそれをバネに飛躍していくプロセスを大切にしています。また、ゼミはキャリア教育の場でもあるため、生涯に亘って生活していく力も身につけてもらいたいと思っています。

Profile

有賀 郁敏 (あるがいくとし)

産業社会学部教授 スポーツ社会専攻

1980年早稲田大学教育学部卒業、1985年筑波大学大学院体育科学研究科博士課程を修了。1992年から立命館大学へ。研究分野は「近代ドイツ協会史」「アソシエーション研究」。趣味は料理と映画鑑賞で、中でも山田洋次監督の作品を好む。所属学会は日本体育学会、ドイツ現代史学会、スポーツ史学会。好きな言葉は「誠実」、父の遺言である「道理を大事にしる」。

Student's Voice

ハード、だけど面白い

産業社会学部 4回生 井上春奈さん



有賀ゼミは「ハード、だけど面白い」ゼミです。私は余暇を研究するという独特なテーマに惹かれてこのゼミを選んだのですが、最初は難しい本をじっくり読み進めることや、グループで議論を重ねて論文を仕上げていくことに悪戦苦闘が続きました。しかし、中々つかみどころのない「余暇」というテーマを社会的背景や政治、経済、文化などの様々な視点から紐解いていくことや、個性豊かなゼミ生たちとの議論から新しい発見をするといった、意欲的に取り組めるこのゼミで学ぶことは、本当に楽しいです。現在は卒業研究を進めていますが、これまでの集大成として納得いくものができるように、ゼミ生たちと協力合って頑張っています。

Student's Voice

「知る」ことの大切さを学ぶ

産業社会学部 4回生 末松景子さん



1回生の後期に有賀教授に演習を担当してもらい「ここだ!」と思いました。学生の主体性があるこそ、ゼミでの研究が深まります。このゼミで研究する中で「個人研究といえども一人でやっているわけではない」ということに気づきました。自分から他の人の研究に向き合わなければ、一見、自分には関係ないと思われる他人の研究からヒントを得ることはできません。各々の研究における個別の知識はもちろん「これは×」「これは○」ということを上辺の知識で判断するのではなく、「これは何だろう?」と疑問を持つこと、様々な角度から物事を見て自分なりの考え方もつこと、そしてまずは「知る」ということの大切さを学びました。

編集
後記

何より活発だ。卒業論文の中間発表では聴いているゼミ生から質問が相次ぎ、意見交換する中で、さらなる発展につながっている。有賀教授の理想は「私を必要としないゼミ」。各自がプライドを持ってゼミを取り仕切り、切磋琢磨する状況は、その理想に近づいている表れだ。有賀教授はゼミを「居場所」と捉え、ゼミ生それぞれの存在が認められる環境づくりに努めている。卒業後もゼミのOB・OGと会う機会が多く、相談を受けることもしばしば。「ゼミの卒業生は全員覚えてますよ」と有賀教授。ゼミ生にとっての「居場所」は、これからもずっと続く。

□ 小久保ゼミ 経営学部 経営学科 小久保みどり教授 □ ゼミテーマ:変動する企業組織と働く人々の心理と行動

小久保ゼミでは企業組織と、そこで働く人々の心理や行動についての理論を学び、これらにまつわる事柄について、実証的に研究しています。小久保教授にインタビューするとともに、ゼミをのぞいてみました。

ゼミ紹介

ゼミで得た「実証研究」は最大の武器

経営学部 4回生 野村拓人 さん

小久保ゼミは組織行動やリーダーシップ、さらにキャリア志向といった問題について主に研究しています。ゼミの雰囲気は自由な討論が盛んに行われる朗らかなもので、ゼミ生は小久保教授に対して積極的に疑問を投げかけ、それに対して小久保教授は辛辣に、そして真摯に答えてくださいます。この真剣なご指導によって未熟な私たちが鍛え上げられています。

3回生では前期、後期を通して「実証研究」に必要な知識を得るため、「リーダーシップ」をテーマにした調査を行うことが主な取り組みで、各々がリーダーシップ理論に関する文献を調べ、そこから導き出された仮説を検証するための質問紙調査を行いました。また、質問紙を量的に評価するために必要な統計の勉強や統計ソフトの扱い方も経験しました。

4回生では卒業論文に向けて各自の研究テーマを決めた後、新しい実証研究を学ぶため、さらに文献研究や議論を行い、テーマと研究方法が決まったゼミ生から研究を進めています。

ゼミ生の研究内容は「観光問題」「グローバルリーダーシップ」「カリスマリーダーシップ」「キャリア志向」「同族経営」など、バラエティーに富んでいます。そして、そのすべてが単なるケース・スタディや思弁に止まらず、自らの労力を使って調査する実証研究で、メンバーは皆、身近に存在する疑問や問題について自ら調査しようという意欲をもって研究しています。

3回生になったばかりの頃は研究に対する知識や物事の見方といった“武器”は何も持っていませんでしたが、今では多くの武器を手にしていて感じています。情報が溢れ、何が真実なのか見極めることが大事な現代、小久保ゼミで得た武器を用いて社会に貢献したいと考えています。



ゼミで得た武器を活用し、ゼミ生たちは研究に励んでいます。



ゼミ生は小久保教授に対し、積極的に質問を投げかけます。



快活な議論が展開されています。

Schedule <予定>

● 3回生

前期 提示された課題について文献を調べ、仮説を作成。

それを検証するための質問紙の作成。夏休みにデータ収集

後期 収集したデータの分析、プレゼンテーション、報告書作成

● 4回生

前期 テーマを決めて卒論の概要を決定

後期 卒論作成



Interview

組織論や産業・組織心理学の立場からの 実証研究

私は「組織を成功に導くリーダーシップ」や「非正規従業員の雇用環境と働き方」、そして「若者のキャリア開発、および職業選択のジェンダー差」などについて実証的に研究しています。組織で働く人が自分の能力を最大限に生かし、かつ組織が望ましい結果を得るために必要なことについて、組織論や産業・組織心理学の立場から研究を進めています。

現在、企業を取り巻く環境は激しく変動し、企業組織も変革を迫られています。それに伴って企業と従業員の関わりも新たな展開をみせています。このような時だからこそ、企業組織とそこで働く人々の心理と行動についての考察が必要で、これまで組織におけるリーダーシップや組織風土、パートやアルバイトの働きがいなどについても研究し、ゼミでも取り上げてきました。

企業での経験が研究の出発点

近年、企業のトップマネジメントの不祥事が続くほか、営利のみを目指す経営が行き詰まったりするなどの社会状況を受けて「モラル・リーダーシップ」に再び焦点が当たってきています。企業の成長を促し、かつモラルを重視するリーダーについての研究が面白くなってきています。

私は大学卒業後、企業に8年半、勤めましたが、その時に、様々な矛盾、疑問、不満を感じました。この時の経験が、私の研究の出発点です。自分の経験についてアカデミックに研究しようと、働きながら大学院に進学し、その後退職して研究者の道へと進みました。

ゼミは人生を切り開く力を見につける場所

このゼミの特徴は文献を調べるだけでなく、働いている人に関し
ての実証的な研究を行うところです。3 回生で行う「質問紙調査実

習」では組織と働く人に関する問題をとりあげ、関連する理論や先行研究を調べて仮説を立て、それを検証するための質問紙を作成し、データ収集、統計的分析を行って、結果をまとめ、プレゼンテーションし、報告書を作成します。

4 回生になると、ゼミ生はこうした作業が持つ意味について理解をはじめ、研究の面白さに気づいていきます。この実証研究の一連の流れをすべて経験したうえで、卒業論文では自分自身の研究に挑戦します。

ゼミとは専門の学問にふれながら、自分自身の頭で社会について論理的に考え、自分の人生を切り開いていく力を身につけるとともに、一生の友人ができる場所ではないでしょうか。有意義な時間を過ごしてほしいと思います。



Profile

小久保 みどり (こくぼ みどり)

経営学部教授 経営学科

1981年東京大学文学部卒業後、IT大手企業に入社。約8年間勤め、1989年東京大学大学院社会学研究科入学、1991年に修士課程修了。他大学の助手を経て1996年から立命館大学へ。研究分野は組織論、産業・組織心理学。趣味は文楽、歌舞伎などの演劇鑑賞。所属学会は産業・組織心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、日本心理学会、経営行動科学学会、組織学会、アジア社会心理学会、日本社会心理学会。好きな言葉は「志を高く」。

Student's Voice

生の声に基づく研究から感じる
実社会とのつながり

経営学部 4回生 小嶋一史 さん



教育やスポーツを通して子どもたちと関わる機会が多く、その中でリーダーシップがとても重要なスキルの一つであると感じ、小久保ゼミを選びました。3回生ではパートやアルバイトで働く方にアンケートをとり、それを統計にかけ、PM(目標達成機能と集団維持機能)理論に基づくリーダーシップについて研究しました。このゼミでは文献だけではなく、実際のアンケートから得られた「生の声」による統計のデータに基づいて研究しており、実社会とのつながりを感じています。卒業論文ではアンケートや統計を活用し、実際に社会で働く人たちのキャリア志向について研究しています。ゼミで学んだことを活かし、今後の自らの活動に少しでも役立てたいと思います。

Student's Voice

将来に必要な
リーダーシップなどについて研究

経営学部 4回生 藤岡志乃 さん



従業員が様々な問題を抱えている場合、企業は「成果を出すことがなかなか難しい」という学びをきっかけに、将来、社会人になる上で必要となるモチベーションやリーダーシップ、ストレス解消法などを研究したいと思い、小久保ゼミを選びました。「リーダーがどのような行動をとれば部下のモチベーションは上がるのか」というテーマの研究では、目標設定や仲間意識の重要性に加え、生活に役立つ成果を得ることができました。小久保教授はゼミのことをはじめ、様々な相談に乗ってくださる方で、多くのアドバイスもいただきました。9名という少数人数ですのでゼミ旅行へ行ったり、先生を囲んで食事会を開くなど、アットホームなゼミです。

編 集
後 記

企業での勤務経験を持ち、実証研究を特徴とする小久保教授のゼミでは労働の「現場」に焦点が当たる。ゼミの研究分野は組織行動やリーダーシップなど、現代社会の問題点と直結し、近い将来に社会に出るゼミ生にとっては身近な問題だ。そして、ゼミ生は「働くこと」に対する理解を深めた上で就職活動に挑んでいる。卒業論文の中間発表では「参考文献が少なすぎる!」「もう一度、仮説をやり直し!」などと、厳しく指摘する場面も見られた。一方で、ゼミ生は相談などで頻りに研究室を訪れるという。この信頼関係が小久保ゼミという“組織”の成長につながっている。

海外留学について

About Study Abroad



現

代社会は、情報やモノだけでなく、ヒトも国境を越えて頻繁に行き来する時代。そんな社会でリーダーとして活躍するには、高度な国際性が不可欠です。立命館大学では、教育・研究の「国際化」を重要課題の一つと位置づけ、さまざまな国際教育プログラムを開発、提供しています。なかでも海外留学制度は、種類、規模ともに全国の大学でも屈指の充実ぶりを誇り、学びの目的や語学力に応じて選ぶことができる多彩なプログラムを実施しています。留学期間は2～4週間程度の短期のものから、1 Semester、1学年間、2学年間とさまざまであり、語学力向上を目指す研修や異文化理解を中心としたプログラムから、より専門的な分野の学習を深めるものまでと、言語の種類、レベル、派遣先の国・地域、派遣期間など、選択肢が豊富です。2008年度は1500名を超える学生が海外での生活や学びを通して成長し、その後の学生

生活や進路において活躍の場を広げ、大きな飛躍を遂げています。また、立命館大学では、それぞれの留学に合った奨学金制度を設け、経済面からも学生を支援しています。例えば交換留学生に対しては年間学費の2分の1(1 Semester派遣の場合は4分の1)相当額が奨学金として給付されます。この他にもプログラムの参加者全員に給付される奨学金、留学先での成績優秀者に給付される奨学金(いずれも2009年度実績)など、多様な奨学金制度を設けることで、より多くの学生にとって留学が身近なものとなるような環境を提供しています。



立命館大学独自の奨学金制度

立命館大学には海外留学を行なう学生を支援する以下の奨学金制度があります。全て給付制(返還不要)で、全国の大学のなかでも類を見ない充実した制度です。

	レベル	プログラム名	奨学金制度(2009年度実績)		
全学募集プログラム	イニシエーション型	立命館・昭和ポストン「文化・社会調査」プログラム	10万円を上限に参加費用の18%を給付 ※支給率は毎年変動します。		
		立命館・ポストン大学「英語研修」プログラム			
		異文化理解セミナー(13コース)			
	モチベーション向上型	立命館・ブリュッセル外国語大学「フランス語研修」プログラム		立命館大学の年間学費の1/2相当額を給付	
		国際インスティテュート海外スタディ(7コース)			
		立命館・シモズカレッジ「アメリカ社会とアメリカの国際関係」プログラム			
		1 Semester留学プログラム(3コース)			
				立命館・UBC・ジョイントプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ① UBC・JP 奨学金 A: 参加者全員に30万円を給付 ② UBC・JP 奨学金 B: ターム1の成績上位20名にひとりにつき10万円を給付 ③ UBC・JP 奨学金 C: UBC2年目派遣プログラム参加者を対象に立命館大学の年間学費の1/2相当額を給付
	アドヴァンスト型	交換留学		立命館大学の年間学費の1/2相当額を給付(1学年間) 立命館大学の年間学費の1/4相当額を給付(1 Semester)	
		アメリカン大学との学部共同学位プログラム(AU-DUDP)		<ul style="list-style-type: none"> ① DUDP 奨学金 1: 参加者全員に240万円を給付(3回の分割支給) ② DUDP 奨学金 2: 2年次の成績優秀者10名以内にひとりにつき20万円を給付 	
サフォーク大学との学部共同学位プログラム(SU-DUDP)		<ul style="list-style-type: none"> ① DUDP 奨学金 1: 参加者全員に210万円を給付(3回の分割支給) ② DUDP 奨学金 2: 2年次の成績優秀者7名以内にひとりにつき20万円を給付 			
各学部・教学機関のプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期プログラム: 2009年度は10万円を上限に参加費用の18%を給付 ● 交換留学など長期のプログラム: 年間学費の1/2もしくは1/4相当額を給付 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 支給率は毎年変動します。 ※ 最新の情報については、必ず各学部・教学機関に確認してください。 			

学外組織の奨学金制度

奨学金については、日本政府や外国政府、民間団体の募集するものがあります。概要・募集の情報は、国際教育センター・学生オフィスなどの掲示板で案内しているものもあります。

留学が、世界の中の日本、 世界の中の私を知るきっかけに。

国際関係学部 竹田 理紗さん(留学時3回生)

2008年8月～2009年5月 アメリカ合衆国・ラトガーズ大学
ローム株式会社 海外営業部 欧米統括本部内定



Q: 留学の動機を教えてください。

小さい頃から外国に興味があり、自分なりに英語を勉強してきました。大学に入って、京都を訪れる外国人旅行者のガイドをするサークルに所属。案内しながら外国人の方々と話す機会を得ました。そこで痛感したのは、語学力不足と視野の狭さです。日常会話はできて、もう一歩彼らの心に踏み込む話ができないと感ずることがしばしば。また自分とは違う考え方やものの見方に驚かされるたび、「日本的」な考え方や限られた視野の中でしか発想できない自分自身に、もどかしさを感じました。次第に「もっと多様な世界を見て、広い視野で考えられるようになりたい」という思いが膨らんでいきました。

もう一つは、大学で経済学に興味を持ったこと。特に関心を持って勉強していたある経済学者の出身校でもあるアメリカ・ラトガーズ大学が、立命館大学の交換留学プログラムの協定校の一つだと知り、「ここで勉強してみたい」と思いました。

留学が決まったのは、3回生の春。就職活動

が始まる年でもあり、ためらいはありましたが、「後悔はしたくない!」と、1年間の交換留学に出発しました。

Q: アメリカの大学での勉強は いかがでしたか?

最初は、ほとんど英語を聞き取ることができず、教室で一人、ボカンとしていました。でも負けじと授業ではいつも最前列に陣取り、教授の話を必死で聞き取りました。むこうの授業は、意見を問われることが多く、とても活気があります。自分の意見を言えないと、評価されません。その代わり、わからないことを聞くことには、とても寛容。先生が質問に丁寧に答えてくれるだけでなく、隣の席の学生に「今の、よくわからなかったんだけど」と話しかけても、親切に教えてくれて…。先生や学生に助けられ、勉強を進めることができました。

英語力については、ある時、急にグンッと伸びる瞬間が訪れるんです。留学して1週間経った頃、それまでちんぷんかんぷんだった周囲の英語がいきなり意味をなして聞こえてきて、それから2週間後、今度はいきなり自分の口から英語がスムーズに出るようになる。そんな「ジャンプアップの瞬間」を何度も繰り返し、3カ月程で勉強も生活も難なくこなせるようになりました。

Q: 勉強以外の思い出は?

大学には欧米や中国、韓国、アフリカなど多くの国から来た留学生がいて、多国籍の友達がたくさんできました。思い出深いのは、現地の学生と有志のバレーボールチームを組み、学内のトーナメント大会で、準優勝したこと。バレーボール経験があったことで誘われたものの、私は日本人の中でも小柄な方。体格のいい欧米の学生に交じって、うちのチームは、チームワークでトーナメントを勝ち上がりました。決勝進出を決めた時は、もう感動で胸がいっぱい。皆で抱き合って喜びました。チームのメン

バーとは食事をしたり、今でも連絡を取り合うほど仲良くなりました。

Q: 留学で成長したと感じることは?

人と違う意見を持つことを恐れず、自信を持って自分の考えを相手に伝えられるようになったことだと思います。向こうでは、たとえ考え方が違っても、それぞれの意見が尊重され、表現することが評価されます。留学前、私はたくさんの人の中で自分の意見を主張するのを遠慮してしまうところがあったのですが、留学後は、素直に表現できるようになりました。

Q: 留学後、考え方や進路への 志望は、変わりましたか?

大きく変わりました。留学するまでは、正直なところ、世界の中で日本の認知度は、もう少し高いたらうと思っていたんです。ところが留学先では、アジア人といえば中国や韓国の方が多く、日本のことは思った以上に知られていませんでした。「これから世界の中で日本はどうなっていくのだろう」と危機感を覚え、私自身が日本のことを世界にアピールする役割を担えたらと考えるようになりました。

それまでは経済の勉強を生かして金融業界へ進むことを考えていましたが、帰国後すぐに始めた就職活動では、海外で事業を展開するメーカーか商社を希望。結果、メーカーの海外営業部に就職が決まりました。

Q: これからの目標を 聞かせてください。

2、3年、国内で経験を積んだ後、外国の営業部門へ配属される予定。高い技術力や高品質な製品を通して、日本のすばらしさを世界に伝えていくのが、今の目標です。これから先、10年後も20年後も常に何かにチャレンジしている人でありたいと思っています。



エクステンションセンター 活用術

エクステンションセンターでは、多種多様な資格取得、国家公務員や地方公務員、公認会計士などの難関試験突破、パソコンやビジネスマナーなどのスキルアップをサポートするためのさまざまな講座を開講しています。今回は、エクステンションセンターをより効果的に活用するための心構えや学び方についてご紹介します。



正課の学びを通して
将来の目標をしっかりと定め、
資格を強みに希望する進路を切り開く。

キャリアセンター／浅野昭人次長

「就職が厳しい」という理由から資格取得を目的化せず「何のため」を考える

2008年秋以降続く経済不況の影響を受け、2008年度に2.14倍だった大学卒業予定者の有効求人倍率が、2009年度は1.62倍に減少。大学生全般に「就職は厳しい」という風潮が蔓延しています。まさに今、就職活動を控えている3回生は特に、強い危機感を抱いているようです。また3回生ほどではないにせよ、1、2回生の間にも漠然とした不安感が広がっています。

その結果、「この資格を取ってれば就職に有利かもしれない」「とにかく公務員になれば安泰だ」といった安易な考えから、目的も、したいこともないままに、やみくもに資格等を取得しようとエクステンションセンターに駆け込む学生が増えるかもしれません。しかし、大切なことは将来自分は何をしたいのか、そのためにこの資格や受験はどのような意味を持つのかをしっかりと考えることです。

資格の取得と同時に自らの内実を高める努力を

エクステンションセンターの役割は、さまざまな資格取得や国家公務員をはじめとする難関試験突破などを「方法論」的な見地から後押しすることです。しかし希望の進路・就職をつかむためには、資格を取得するだけでは十分ではありません。

私が就職活動を前にした学生にアドバイスをする際、よく言う言葉があります。それは「語るべき内容なくして、就職活動は決してうまくいかない」というこ

とです。たとえば国家公務員I種や公認会計士といった難関試験に合格しても、その後のビジョンや人間としての内実が伴っていないければ、官庁訪問や公認会計士事務所への採用試験で決して良い結果は得られません。たとえ合格したとしても、実際に仕事を始めてから働きがいを見出せず、辞めてしまうことになりかねません。重要なのは、取得した資格を糧に将来どうしたいのか、明確な目的、ビジョンを描くこと。また「語るべき内実」、すなわち社会人として求められる基礎力を育むことも合わせて考えなければなりません。

正課をはじめ大学生活全体を通して目標と社会人基礎力を育む

将来の目標を見出し、また社会人として必要な素養を身につける上で欠かせないのは、やはり大学生活、中でも正課の学びです。特に立命館大学の教育は、多様性に富んでいます。単に知識を身に付けるのではなく、グループワークやプレゼンテーションを取り入れたり、教室を飛び出してフィールドで学んだり、社会の第一線で活躍する人を招いたリレー講義があったり…。多様な学習を通して、専門知識はもちろん、それを生かす力や情報を収集する力、人と協力し合いながら物事を進める力などが養われます。それこそがどんな分野に進む上でも求められる「社会人基礎力」です。

正課の学びだけではありません。地域活動やサークル・クラブ活動といった課外活動、留学など大学生活すべてが、こうした力や将来の目標を定めるのに役立つ

ちます。

一方で、将来の目標を見出すもう一つの仕組みとして、立命館大学ではキャリア教育を重視しています。社会の構造や働くことの意味、生きることの意義を考え、自分自身を見つめる機会をカリキュラムの中に盛り込んでいます。

希望の進路・就職をつかむためのプロセスとして資格取得を考えよう

学びを通して目標が明確に定まって初めて、資格が強みになります。つまり大学での学びと一緒にこそ、エクステンションセンターを活用する意味が高まっていくのです。

講座を受講すれば、同じ目的を持った仲間に出会うこともできます。厳しい試験を目指す上で、励まし合える仲間は大きな支えとなることでしょう。

またエクステンションセンターで提供する講座は、仕事に直結するものばかりではありません。とはいえファイナンシャルプランナーや総合旅行業務取扱管理者など、それぞれある職業や業界を意識して取るものであるはず。資格取得の勉強を通してその業界を深く知り、より進路を明確にしていくためのものとして活用してほしいと考えています。

資格取得は、希望の進路・就職をつかむためのプロセスの一つ。正課での学びや大学生活を充実させ、その中から自分自身の目標を見つけてほしい。そうすればエクステンションセンターの講座での学びが、ひとり一人の希望する進路を切り開く上で大きな意味を持つでしょう。



正課と講座の両方の学びが、 多様な視点を得ることにつながった

赤澤一成さん

経営学部 3回生 / 公認会計士試験合格 京都監査法人内定



公 認会計士に憧れたのは、高校1年生の時。立命館大学への進学を決めたのも、エクステンションセンターの講座に、キャンパス内で大原簿記法律専門学校のプログラムを受けられる「公認会計士講座」があると知ったからでした。

3回生で合格することを目標に、1回生から講座を受け始め、計画的に勉強を進めてきました。講座と自習を合わせると、1回生で平均5時間、2回生では平均10時間を勉強に費やしました。2年半の間、集中力を絶やさず勉強を続けられたのには、同じ目標をもつ仲間と出会えたことが大きいです。わからないところを教え合ったり、意見を交わしたり、勉強について本気で語り合える仲間がいたことが、心の支えになりました。

公認会計士試験に合格することはもちろん、合格後の就職先の選択も、大きな課題です。私の場合、決め手になったのは、2回生の夏、エクステンションセンターのプログラムの一つ「オフィスツアー」で、京都監査法人を見学したことでした。

オフィスの雰囲気や働いている人、所長の人柄にふれ、「ここで働きたい」という思いを強くしました。採用面接でも、そうした熱意が認められたと感じています。

「公認会計士講座」の一番のメリットは、やはりキャンパス内で、大原簿記専門学校のプログラムを受講できることです。おかげで正課の授業を欠かさず受けながら、受験勉強を続けることができました。

正課の授業では、試験に沿って解答を導き出す受験勉強とは、まったく違った視点からアプローチします。多角的な視点を得たことが、試験合格にとどまらず、公認会計士として働く上での力になったと思います。その他、会計に対する考え方が180℃変わってしまうような、興味深い授業もありました。正課での学びを通して、公認会計士の仕事にますます魅力とやりがいを感じ、将来の職業として確かな手ごたえを得たのは、正課の学びがあったから。正課とエクステンションセンターの両方あったことで、学びはより深いものとなりました。



正課の学び、サークル活動、大学生生活の充実が、 難関突破の糧に

中山美智代さん

理工学部 4回生 / 国家公務員I種合格 文部科学省内定

将 来について真剣に考えた時、一番重視したのは、「いつか結婚しても、子どもを産んでも、家庭と両立できる仕事を選ぶ」こと。公務員は、それを実現するための選択肢の一つでした。大学院進学も考えていたので、「たとえ公務員にならなくても、勉強したことがマイナスにはならない」と、軽い気持ちで試験勉強を始めました。

正課の学びもおそろそかにしたくないし、大学生生活も充実させたい。そう考えていた私は、自学自習に時間を割く代わりに、エクステンションセンターの「公務員講座」に集中することを心がけました。3回生の春から週1、2回受けていた講義は、後期には週3回になり、試験直前は日曜を除くほぼ毎日。講師の先生が、徹底した分析に基づいて予想問題を出してくれるなど、手厚く指導してくださったので、講義を聞くだけで、十分力がつきました。

一方で、自閉症児を支援するボランティアサークルでの活動を続けてきました。また3回生の夏休みには、3週間、ドイ

ツでの国際ボランティア活動にも参加しました。大学に入るまではどちらかという人見知りだった私が、世界へ飛び出し、多くの人と接する中で、人とも積極的にかかわれるようになりました。

サークル活動や公務員試験の勉強、また大学の授業に忙しく、アルバイトをする暇はありません。けれど正課の学びをがんばることが、奨学金の獲得、さらには公務員試験に役立つ基礎学力を育むことにもつながりました。試験合格後、各官庁の面接でも、多くの経験を積んだことや、学びを通して将来の展望を描いてきたことをきちんと話せたことが、評価されました。

最後まで大学院進学を迷ったけれど、専門分野を追求する研究者より、幅広い学術分野を行政の立場から支援する文部科学省の仕事に魅力を感じ、就職を決意。公務員試験の勉強だけに終始するのではなく、大学生生活を充実させたことが、自分を成長させ、結果的に進路を選択する上でも大きな力となったと今、思っています。

Introduction of facilities

施設紹介

vol. 1



諒友館食堂

諒友館食堂の営業時間は、平日の10時30分～17時。オリジナルメニューが豊富で、いつも大勢の学生でにぎわっています。併設のカフェ（営業時間は平日の11時～18時）もあり、スイーツや軽食メニューも豊富です。



Navigator

山本静奈さん(左)
産業社会学部 4回生

河端優美さん(右)
産業社会学部 4回生



BKCジム

平日・土曜は9時～21時、日曜・祝日も9時～19時と、遅い時間や休みの日にも使えるBKCジムは、体育会系クラブの選手だけでなく、多くの学生が利用しています。



Navigator

笠島寛徳さん
理工学部 4回生

つつい
食べ過ぎてしまう
メニューの多さが、
困りもの!?



レシートに表記され
たカロリーを気にし
つつ…。でもつい
つい食べ過ぎてし
まうのが、いつもの
パターン。



「今週の店長おすすめオーダーメ
ニュー」が掲示板にずらり。これだけ
でもたくさんあって迷ってしまいます。



衣 笠キャンパスにある3つの食堂の
中で、ダントツの種類を誇るのが、
ココ諒友館食堂です。まず入口を入った
ところに置かれているのは、ビュッフェ形
式のお惣菜とサラダコーナー。お惣菜は、
常時20種類近く揃っていて、鶏のから揚
げ、野菜たっぷりの煮物や炒め物など、一
人暮らしの身に優しい家庭の味を楽しめ
ます。そうそう、変わりダネでは、おはぎも
あるんですよ。すべて測り売り(1.2円/g)
だから、種類は多めに、でもあまり重くなら

ないように注意してに皿に盛っています。
続く売場は、メインディッシュのコー
ナー。ハンバーグ&エビフライ(380円)、
煮込みハンバーグ(390円)など、ガッツリ
系のおかずとご飯の組み合わせや、どん
ぶりを選ぶことが多いかな。そして、食後
のスイーツ! 季節ごとの限定ケーキやプリン
など、手作りのお菓子が何種類も並ぶ食
堂は、他にはちょっとないかもしれません。
諒友館食堂のおすすめポイントは、なん
どいってもメニューの多さ! ハンバーグなど

の鉄板料理の他、季節ごとに食堂の方が
考えたキャンペーンメニューもあるんです。
「今週の店長おすすめオーダーメニュー」と
か、「生協食堂職員が考えた小鉢メ
ニュー」など、手作り感が伝わるメニュー
が、食欲をそそるんですよ。あと、学生の
持ち込み企画もOK。この間は、あるサー
クルの名前を冠した「とらじろうカフェ」なん
てメニューもあったな。

この顔にも、
運動の成果が
表れているハズ…。



バイクマシンにまたがって、
めざせ-5kg!



衛生管理のいき届いたシャ
ワールームもあり、トレー
ニングでかいた汗をスッキリ洗
い流せます。



4 回生ともなると、卒業研究のため
に研究室にこもり、朝から夜遅くま
で実験に明け暮れる毎日が続くようになり
ます。当然体は、運動不足気味。気になり
始めた体重増加に歯止めをかけるのと、
研究の合間のリフレッシュに最適なのが、
BKCジムです。施設の使用に関するレク
チャーを受ければ、どの学生でも使うことが
できます。キャンパス内にあり、時間ができ
た時にすぐ行ける手軽さがいいですね。
広々としたジム内には、ランニングマシン

ン、レッグエクステンション、ベンチプレス、
ショルダープレスなど、新しい運動機器が
揃っています。僕のいつもの運動メニュー
は、ランニングマシンで30分のランニング
と、腹筋、背筋運動、さらに最後に6分間
の軽いジョギングでクールダウン。ランの
代わりにバイクに乗ることもありますよ。週
2、3回通い、最初は辛かったこのメ
ニューも、今では余裕!、とまではいかない
ですが…。この2ヶ月で-3kgの減量に
成功! 研究室の仲間からも「顔の周りが

すっきりした」などと言われ、ますますやる
気がわいているこの頃です。
ジム以外の設備も充実しているのが、
BKCジムのいいところ! 更衣室の他に
シャワールームも完備。運動でかいた汗を
スッキリ流して、研究や授業に戻ることが
できます。アイシング用の氷が常備された
大型冷蔵庫など、体育会系クラブの選手
のための本格装備も。
その他、申請すれば、クラブ活動以外
でも使える体育館もあります。

こんな時には保健センターへ

保護者の皆様には、平素から健康教育にご協力・ご支援を賜り、誠に有難うございます。

立命館大学には、各キャンパスに保健センターがあります。一人暮らしをされているお子様が体調を崩された時や、不安に感じる症状がありどこに相談すれば良いか分からない時などに、是非、受診をお勧めください。

保健センターとしての機能

- 学生の希望に応じて、看護師、保健師、内科医師、精神科医師が健康相談を行っています（無料）。
- 静養するためのベッドがあります。
- けがの応急手当をします。
- 禁煙のサポートや女性内科医師による女性専用外来を行っています。
- 毎年4月に定期健康診断を実施します。
- 就職活動や海外留学などに必要な健康診断証明書の発行や、そのために必要な検査を行っています。

診療所としての機能

- 一般内科と精神科の外来診療を行っています（保険診療）。診察に加えて血液検査や超音波検査、薬の処方などを行い、必要があれば専門医の紹介や精密検査の予約も致します。
- 持病があり、下宿先で近隣医療機関を探しておられる方に、治療を継続もしくは専門医を紹介します。

検査や投薬が無い場合は原則として無料ですので、気軽にご利用いただけます。

なお、禁煙外来（禁煙のサポート）やレディース外来（女性専用外来）、相談室（精神科外来）は予約制です。

禁煙への取り組み

2009年度新入生の喫煙率は男子3%、女子0.4%ですが、4回生では男子30%、女子7%になります。大学が悪い生活習慣を身に付ける場となってはならないと考

え、これまでにタバコの自動販売機の撤去や分煙を進めてきました。受動喫煙も大きな問題で、現在本学では、「喫煙シェルター」以外での喫煙を禁じています。また、2013年には完全敷地内禁煙になります。その前段階として、現在喫煙していない方が今後も喫煙しないように（防煙）、現在喫煙している方は止めるように

(禁煙)、保健センターでは、健康教育と禁煙外来を行っています。タバコは吸い始めないのが一番、もし吸い始めても、早ければ早いほどニコチン依存が軽く、禁煙が容易です。お子様が喫煙されていれば、是非一度、禁煙をお勧めください。



レディース外来

保健センターでは、女性の内科医師が、女性専用の外来を予約制で行っています。思春期から大学生にかけて、月経痛が強くなってきたり、月経不順が気になりだしたりすることがあります。一人暮らしを始めるなどの大きな生活の変化により、月経が止まってしまうこともあります。また、最近では、月経前に腹痛や精神的に不安定になる(イライラ、気分の落ち込み、怒りっぽい)など、月経前症候群の訴えも増えてきています。正常な発育過程であっても、ご本人は病気ではないかと誰にも相談できずに悩んでおられることもあるでしょう。相談内容は、月経以外にもオリモノや乳房のこと、また時には便秘や膀胱炎、友人関係のことなど多岐にわたります。受診を急ぐ必要がなく、男性医師には相談しにくいと思われる際には、是非受診をお勧めください。

保護者の方へのお願い

●**下宿されているお子様には、体温計と健康保険証(もしくは遠隔地被保険者証)を持たせてください。**

インフルエンザなどの感染症が流行している場合、発熱があれば登校しないように指導することがあります。しかし、高熱があるにもかかわらず登校する学生が多く、感染予防上問題になっています。高熱があるのに何故登校したか尋ねると、体温計が下宿に無いと答える下宿生が非常に多いのが現状です。お子様が体温計をお持ちかどうかご確認頂き、お持ちでなければ是非購入をお勧めください。また、保健センターや医療機関で検査や投薬を受けるには、健康保険証が必要です(遠

隔地被保険者証の申請には在学証明書が必要です)。いつでも医療機関にかかれるようにご準備ください。

●**人から薬やサプリメントをもらわないようにご指導ください。**

ご存知のとおり、大学にも薬物汚染が広がっています。薬物を始めるきっかけの大半は、友人や先輩などから勧められたからです。試験前に寝不足で疲れていると、「これ飲むと徹夜ができるよ」「疲れがとれるよ」と声をかけられ、違法ドラッグとは知らずに摂取してしまうと、もう止められません。インターネットでも違法ドラッグとは分からないように売られています。また、他人が病院で処方された薬をもらって服用し、アナフィラキシーショック(命にかかわるアレルギー反応)を起こしたケースもあります。自分が病院で処方してもらった薬か、薬局で直接購入した薬以外は飲まないようにご指導ください。

●**持病がある場合は、正確な情報をお知らせください。**

入学時の健康診断で、既往歴や現病歴をお尋ねしていますが、正しい情報を伝えていただけない場合があります。疾患を把握していなかったために救急対応に支障が生じたり、必要以上に騒ぎが大きくなる場合があります。保健センターが、外来診療や健康診断で知り得た情報は、ご本人の在学中の健康管理にのみ使用します。本人の同意なしに第三者(学内他部署を含む)に開示したり、就職用証明書に記載したりすることはありません。お子様自身のために、どうか正確な病歴をお教えてください。また、本人が自分の病気についてほとんど知識がない場合も多く見受けられます。自分自身の体や病気について正しい知識を身に付け、自分で健康管理ができるように、ご家庭でもご指導いただけましたら幸いです。



詳しくは、下記の保健センターのホームページをご覧ください。

※立命館保健センター

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/>
立命館大学ホームページ → 各センター等 → 保健センター

新入生父母アンケート結果報告

本学では、学生実態を正確に把握することによって、正課学習や課外活動における適切な学生援助の実現をめざしています。そのための実態把握の一環として、新入生のご父母のみなさまを対象としたアンケートを、お子様が最初のセメスターを終えられた時期であり、お子様とお話をされる機会が比較的多い時期である8月に実施しています。

今年度もご多忙にも関わらず、多くのご父母の皆様からご協力をいただきありがとうございました。お寄せいただいたご意見・ご提案につきましては、今後の学生援助、また援助政策を充実するにあたっての貴重な資料として活用させていただきます。

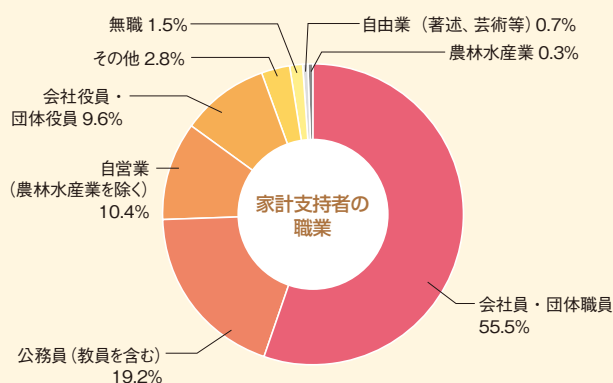
以下、アンケート結果の概要を報告いたします。

アンケート実施概要

- ◎実施時期：2009年8月
- ◎実施対象者：2009年度新入生の父母または保証人から無作為抽出した3,000名
- ◎回答数：1,685名（回答率56.2%）

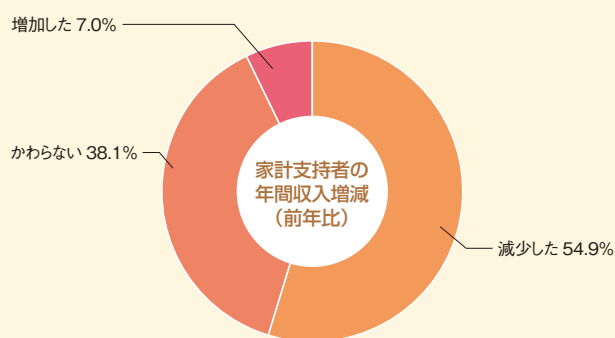
■主な質問と回答

主たる家計支持者の職業



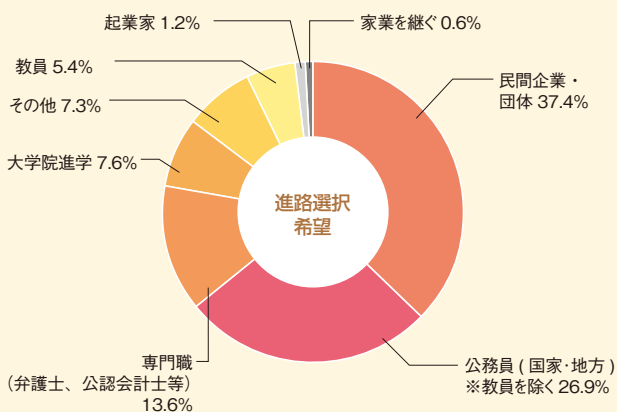
学部別では会社員・団体職員比率が最も高かったのは生命科学部（64.4%）、公務員比率が最も高かったのは映像学部（26.9%）でした。

主たる家計支持者の年間収入増減（前年比）



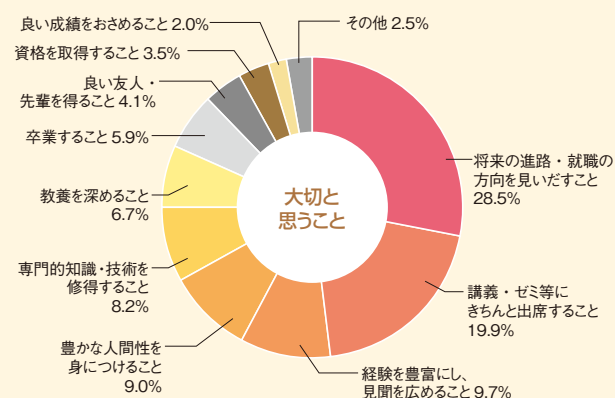
「減少した」世帯が2008年度は33.4%でしたが、今年度は経済状況を反映して54.9%と大きく増加しました。一方で「増加した」世帯は2008年度の13.6%から半減し、7.0%となりました。

卒業後の進路選択希望



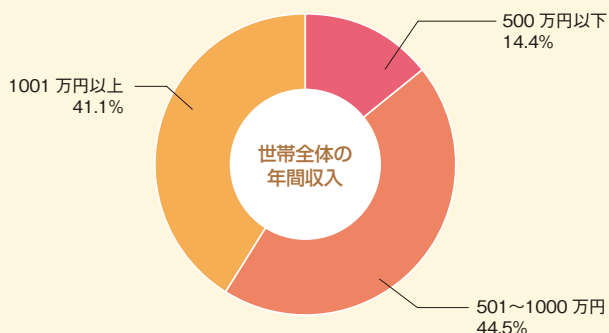
- ・「民間企業・団体」希望は、2008年度とほぼ同率でした。
- ・「公務員」希望は、2008年度は21.2%でしたが、今年度は26.9%に増加しています。
- ・「専門職」希望は、2008年度は18.5%でしたが、今年度は13.6%に減少しています。

学生生活で大切と思うこと（第1位として回答があったもの）

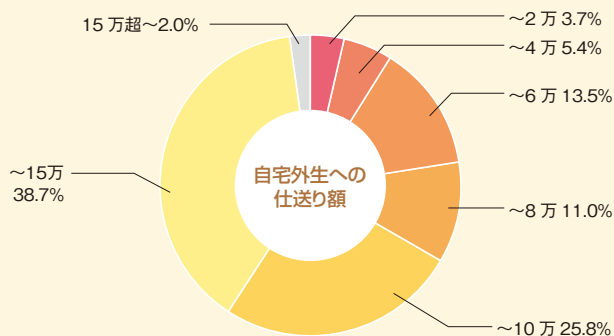


- ・「将来の進路・就職の方向を見いだすこと」が2008年度は24.7%でしたが、今年度は28.5%に増加しました。
- ・「講義・ゼミ等にきちんと出席すること」が、2008年度は24.0%でしたが、今年度は19.9%に減少しました。

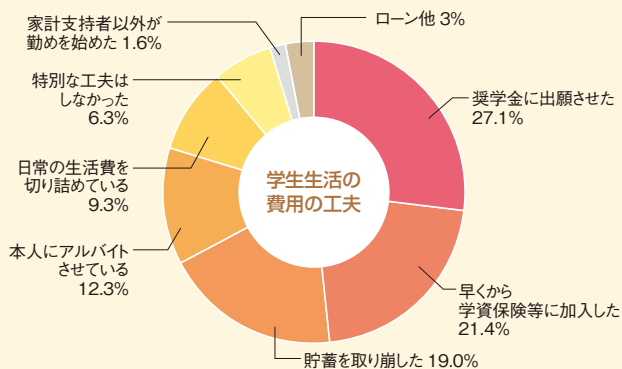
Q 世帯全体の年間収入



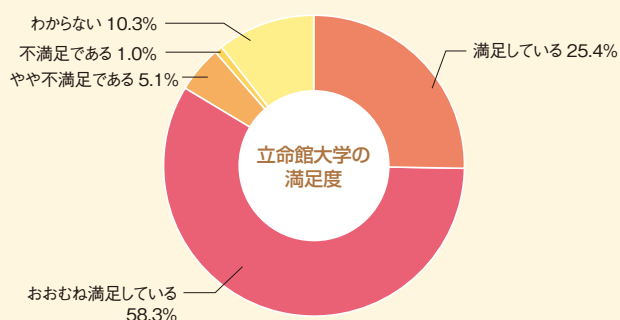
Q 自宅外生への月々の仕送り額 (学費除く)



Q 学生生活に必要な費用に関する工夫 (第1位として回答があったもの)



Q 立命館大学の満足度



「満足」「おおむね満足」が83.7%、「やや不満足」「不満足」が6.1%となっています。

Q & A

奨学金に関する質問

アンケートに寄せられたご質問の中から、経済的支援を目的とした奨学金に関する質問にお答えします。

Q 子供が日本学生支援機構の奨学金を受けているのですが、学内奨学金も同時に受けられるのでしょうか？

A 受けられます。学内奨学金はほとんどが給付制です。条件が合致する方は、日本学生支援機構奨学金受給の有無に関わらず、積極的に出願されることをお勧めします。

Q 所得がやや高いのですが、就学者が多いうえに住宅ローンもあって家計が大変です。奨学金の選考の際には考慮されないのでしょうか？

A 選考にあたっては、ご兄弟の人数と就学状況、単身赴任や長期療養の有無などについて、定められた金額を収入から控除しています。そのため、同じ収入であってもご家庭の状況によって採否が分かれることがあります。住宅ローンは日本学生支援機構奨学金をはじめとして、いずれの奨学金も控除の対象にしておりません。

Q 奨学金の制度を詳しく知りたいのですが。

A 大学のHPにてご案内しています。
http://www.ritsumei.jp/scholarship/index_j.html をご覧ください。

Q 低金利の教育ローンがあれば教えてほしいです。

A ご相談があった場合には、まず最初に日本政策金融公庫(旧国民生活金融公庫)の教育ローンを紹介しています。日本政策金融公庫のほか、最寄の銀行、ゆうちょ銀行、農協などでも取り扱っています。この他に、三井住友銀行と提携した“りつめいキャンパスローン”やオリエントコーポレーションと提携した“学費サポートプラン”もあります。学生オフィスの窓口で案内しています。



SPORTS スポーツ

【問い合わせ先】
スポーツ強化センター：075-465-7863

相撲部

第87回全国学生相撲選手権大会 団体戦Aクラスで、 相撲部史上初の3位

(11月8日 堺市大浜公園相撲場)

第87回全国学生相撲選手権大会団体戦Aクラスで、立命館大学は準決勝で東京農業大学に敗れたものの、相撲部史上初の3位に入った。



硬式野球部

藤原正典投手(文学部4回生) 阪神にドラフト2位指名

(10月29日 衣笠キャンパス)



プロ野球ドラフト会議が開催され、立命館大学体育会硬式野球部の藤原正典投手(文学部4回生)が

阪神タイガースにドラフト2位指名された。衣笠キャンパスには硬式野球部や応援団など多くの学生たちが集まり、藤原投手と喜びを分かち合った。

立命館大学硬式野球部、 立同戦第3戦に勝利し 秋季リーグ戦優勝!

(10月27日 わかさスタジアム京都)

関西学生野球連盟秋季リーグ戦の伝統の一戦、立同戦第3戦が開催された。立命館大学が4対0で快勝し、昨年秋季ぶりの優勝を果たした。



陸上競技部

第93回 日本陸上競技選手権 リレー競技大会、2位入賞!

(10月23日～25日 日産スタジアム)

男子陸上競技部は4×100mリレーにおいて、関西学生タイ記録となる39秒74で見事2位入賞を果たした。

これまで2005年開催の同大会において、4×400mリレーで8位入賞を果たしたのが過去最高順位であったが、両リレーを通じて初の快挙となる。



第27回全日本大学女子駅伝、 惜しくも2位

(10月25日 宮城県仙台市内)

第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が宮城県仙台市内で開催され、4連覇をめざした立命館大学は佛教大学に阻まれ2位となった。

今年の大会は、上位2校が大会新記録を出すという画期的なレース展開となった。



2009びわ湖大学駅伝で 2年ぶり総合優勝!

(11月21日 滋賀県)



2009びわ湖大学駅伝兼第71回関西学生対校駅伝競走大会において、立命館大学男子陸上競技部が2年ぶりの総合優勝を果たした。

2位に2分24秒差をつけ2年ぶり3回目の総合優勝、関西学生対校5連覇を成し遂げた。

柔道部

第1回全日本学生柔道女子選抜 体重別団体優勝大会で3位入賞!

(11月22日 埼玉県立武道館)

埼玉県立武道館で開催された第1回全日本

学生柔道女子選抜体重別団体優勝大会において、立命館大学柔道部が創部以来初となる学生全国大会3位入賞を果たした。



陸上ホッケー部

4年ぶりに 全日本学生男子ホッケー選手権優勝!

(10月25日 奈良県・親里ホッケー場)

曇天の中、行われた決勝戦。決勝では山梨学院大学に5-0で快勝し、4年ぶり3度目の優勝を飾った。



〈立命館宇治高等学校〉

硬式野球部 京都府高校野球秋季大会優勝!

(10月4日 わかさスタジアム京都)

▶ 優勝(6年ぶり3回目)

秋季京都府高校野球大会決勝が行われ、立命館宇治高等学校硬式野球部は、福知山成美高等学校に8対3で勝利、6年ぶり3回目の優勝を飾った。



パンサーズ 初のクリスマスボウル出場決定!

(11月21日 王子スタジアム)

第40回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会準決勝(関西決勝)が行われ、立命館宇治高等学校パンサーズが大阪産業大学附属高校ファイティングエンジェ



ルズに41-21で勝利し、初のクリスマスボウル(全国大会決勝)に出場を決めた。

サッカー部

全国高校サッカー選手権京都大会で初優勝! 全国大会に出場!

(12月5日 西京極陸上競技場)

第88回全国高校サッカー選手権京都大会の決勝がおこなわれ、立命館宇治高等学校サッカー部が、久御山高等学校サッカー部を1-0で破り、初優勝に輝いた。12月30日に開幕する全国大会に府代表として出場する。

CULTURE/ART 文化・芸術

[問い合わせ先]
学生オフィス: 075-465-8167

邦楽部

第57回定期演奏会を開催

(10月30日 京都府立府民ホールALTI)

邦楽部が第57回定期演奏会を開催した。古典風の曲や箏と尺八の二重奏をはじめ、尺八と三味線という珍しい編成の曲など計6曲を披露。最後に総勢37名で大合奏を行った。当日は250名を超える方々の来場があった。



囲碁研究部

**「全日本学生囲碁十傑戦」、
「全日本学生囲碁王座戦」に
それぞれ4名の出場が決定!**

(10月11日・17日 大阪府吹田市)

11日に全日本学生囲碁十傑戦関西予選、17日に全日本学生囲碁王座戦関西二次予選が行われ、それぞれ4名が予選を突破し、全国大会への出場が決定した。



ダブルダッチサークル

**「dig up treasure」のチーム
「CANADA」が全国大会にて優勝!
世界大会出場へ**

(10月18日 エブソン品川)

ダブルダッチの全国大会「DOUBLE DUTCH DELIGHT JAPAN 2009」が開催され、ダブルダッチサークル「dig up treasure」から3チームが出場し、チーム「CANADA」が優勝、世界大会の出場を決めた。



応援団吹奏楽部

**「第57回全日本吹奏楽コンクール」
大学の部において銀賞を受賞!**

(10月17日 名古屋国際会議場)

「第57回全日本吹奏楽コンクール」大学の部において、立命館大学応援団吹奏楽部が2年ぶりに関西代表として出場し、「銀賞」を受賞した。



モダンジャズバレエ部

**モダンジャズバレエ部
自主公演を開催!**

(11月1日 京都市北文化会館)

立命館大学モダンジャズバレエ部が第17回自主公演を開催した。部員の家族や、学内の関係者も含め、400名近くの人々が訪れ、開場と同時に受付には長蛇の列ができた。



茶道研究部

秋季茶会 開催

(10月25日 臨濟宗建仁寺派西来院)

茶道研究部が秋季茶会を開催した。今回の秋季茶会は、風情あふれる西来院を舞台に行われ、学生・校友・教職員・地域住民・観光客ら約130名の方々がお茶を楽しんだ。茶道研究部の大きな特徴として表千家・裏千家がともに活動している。学園行事である校友大会への参加や、地域からの依頼茶会を積極的に行い、学内外の方々に茶道文化の深さと豊かさを伝えている。



珠算部

**全日本珠算競技大会
団体の部において、2等を獲得**

(11月3日 群馬県藤岡市藤岡市民ホール)

全日本珠算競技大会団体の部において、2等を獲得した。



チアリーディング部

**チアリーディング日本代表
第5回世界選手権大会にて優勝!**

(11月28日、29日 ドイツ・ブレーメン)

「第5回チアリーディング世界選手権大会」が開催された。

日本代表には、本学の応援団チアリーダー部から橋本香澄さん(産業社会学部2回生)が「男女混合部門」に、前辻由貴子さん(産業社会学部1回生)が「女子部門」に選出された。今大会において日本代表は「女子部門」「男女混合部門」の2部門にて見事優勝を収め、2007年にフィンランド・ヘルシンキにておこなわれた第4回チアリーディング世界選手権大会に続き、両部門で連覇を果たした。

立命館大学 RITSUMEIKAN UNIVERSITY HOMECOMING DAY 2010

ホームカミングデー

2010年6月6日[日] 10:00—17:00 (予定)

開催地: 立命館大学 衣笠キャンパス(京都)、びわこ・くさつキャンパス(滋賀)

主催 立命館大学 共催 立命館大学校友会、立命館大学父母教育後援会(予定)

春のオープン
カレッジと
同日開催!

本来卒業生の皆様をお迎えする日ですが、立命館大学のホームカミングデーは、ご父母や地域の方々にも楽しんで頂ける企画を多くご用意させていただいております。また、学生も多く参加しますので、ご父母の皆さまと学生との貴重な交流の場にもなると思います。まさに父母・校友・学生・地域の皆さまを一堂に会して絆を深めていただけるホームカミングデー! ご家族とともにお子様が学ばれるキャンパスでの一日を心ゆくまでご満喫ください。

衣笠キャンパス

多彩な校友による トークセッション!

茂山狂言会や著名校友による上演・トークセッションなども実施します。

山田洋次監督の トークショー開催!

本学客員教授の山田洋次監督が、映画にかける情熱を語ります。映画『京都太秦物語』の制作に携わった映像学部の学生とのトークショーも開催します。

白川静先生の 生誕100周年記念企画!

記念講演会やパネル展を実施する予定です。

びわこ・くさつキャンパス

著名人による講演や トークセッション!

脚本家として活躍中の井上由美子氏や、カリスマディーラーと呼ばれる藤巻健史氏ら著名人によるトークセッションなど、盛りだくさんの内容です。

校友と学生の 音楽コラボステージ!

校友と学生が融合した音楽イベント。貴重なステージです。大野実佐子氏や千葉山貴公氏ら芸能界で活躍中の校友歌手も出演します。

両キャンパス共通

大交流会を兼ねた メインステージ!

父母・校友・学生・地域の方々が一挙に集うメインスペース。福引抽選会も開催します。

広小路キャンパスを再現!

立体映像で再現した広小路キャンパス内を散策していただける体験コーナー。また当時の写真パネル展示など立命館の歴史をご覧いただけます。

校友&学生の 参加・交流イベント!

学生課外活動団体による企画など皆さまが参加できるイベントを取り揃えています。

今後、立命館大学ホームページ内に特設サイトをアップする予定! ご期待ください! ▶▶

立命館大学ホームカミングデー

検索



父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeit.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは…

「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

会員様の住所変更について

本誌は、登録されている学生の保証人住所に送付しております。住所を変更された場合は、学生本人による住所変更の手続きが必要です。お子様に学生証をお持ちの上、所属の学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出ていただきますようお願いいたします。

■最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会をいかなる団体にも一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

立命館大学父母教育後援会だより 2009年度 冬号

2010年2月発行 立命館大学父母教育後援会 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel. 075-813-8261 Fax. 075-813-8262